

鹿児島大学総合研究博物館年報
Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.21

2023



鹿児島大学総合研究博物館
The Kagoshima University Museum

年報 No.21 目次

1	総合研究博物館の組織－2023 年度－	橋本達也	1
	館長 研究部 運営委員 兼務教員 学外協力研究者 専門部会		
2	2023 年度の企画事業		
	1. 市民講座		
	第 41 回市民講座「5 世紀の前方後円墳の内部を発掘する一大隅大崎・神領 10 号墳の石棺と副葬品」	橋本	3
	2. 公開講座		
	第 5 回 バックヤードツアー「植物標本庫」	田金秀一郎	3
	3. 研究交流会		
	第 27 回研究交流会「魚のカタチ～形態が解き明かす進化史と社会にもたらす価値」	本村浩之	4
	4. 展示		
	第 21 回特別展「世界自然遺産地域、奄美大島・徳之島の自然―鹿児島大学における研究の最前線―」	田金	4
	5. その他の活動		
	(1) かごしま水族館連続体験講座「いおっ子海っ子体験塾」	本村	8
	(2) 鹿大祭くじ	橋本	8
	(3) モニタリングワークショップ「モニタリング調査に参加してみませんか」	田金	9
	(4) モニタリングワークショップ「植物分布モニタリング調査と分布マップの作成」	田金	9
3	常設展示室	上村 文	10
	1. 入館者数 2. 利用・活用状況 3. 室内環境		
	4. 常設展示室アンケート		
	5. 常設展示室 展示品目録－2023 年度－（2022 年度からの変更点）		
	6. 常設展示室の課題		
4	教育活動		
	1. 博物館実習・博物館学関連講義	橋本・本村・田金	13
5	出版・広報	橋本	14
6	ボランティア活動	本村・田金	16
7	国際交流	本村・田金	16
8	標本管理活動		
	1. 植物標本室	田金	17
	2. 動物標本の利用状況	本村	18
	3. その他の標本等の管理・利用	橋本	20
9	2023 年度 専任教員の活動業績	各教員	21
10	2023 年度 ポスター	各教員	30

1 総合研究博物館の組織－ 2023 年度－

館 長 本村 浩之

研究部

資料研究系	橋本 達也	教授	考古学
分析研究系	本村 浩之	教授	魚類分類学
	田金秀一郎	准教授	植物分類学
	大西 佳子	助教	地球人間圏科学
特任研究員	山本 武能		
事務補佐員	森田 公代		
事務補佐員（常設展示室）	上村 文		
技術補佐員	大西 聡子		
技能補佐員	西原 茉莉		
事 務 局	研究推進部研究協力課研究支援係		

運営委員（総合研究博物館専任教員を除く）

法文学部	北村 浩一	教授	教育学部	日隈 正守	教授
理学部	礼満 ハフィーズ	准教授	医学部	築瀬 誠	教授
歯学部	比地岡 浩志	講師	工学部	石川 岳志	教授
農学部	朴 炳宰	准教授	水産学部	中村 啓彦	教授
共同獣医学部	小尾 岳士	准教授			
理工学研究科	石川 岳志	教授			
医歯学総合研究科	後藤 哲哉	教授			

兼務教員（敬称略）

渡辺 芳郎：法文教育学域法文系（法文学部）（考古学）
 小林 善仁：法文教育学域法文系（法文学部）（歴史地理学）
 日隈 正守：法文教育学域教育学系（教育学部）（日本中世史）
 松井 智彰：法文教育学域教育学系（教育学部）（鉱物学）
 川西 基博：法文教育学域教育学系（教育学部）（植物生態学）
 栗和田 隆：法文教育学域教育学系（教育学部）（動物生態学）
 河野 元治：理工学域理学系（理学部）（地球科学）
 山本 雅史：農水産獣医学域農学系（農学部）（果樹園芸学）
 一谷 勝之：農水産獣医学域農学系（農学部）（植物育種学）
 鶴川 信：農水産獣医学域農学系（農学部）（森林生態学）
 坂巻 祥孝：農水産獣医学域農学系（農学部）（害虫学（昆虫学））
 森脇 潤：農水産獣医学域農学系（農学部）（動物生理学、動物生産科学、獣医学）
 平 瑞樹：農水産獣医学域農学系（農学部）（地域環境システム学分野）
 大富 潤：農水産獣医学域水産学系（水産学部）（水産生物学）
 佐久間 美明：農水産獣医学域水産学系（水産学部）（漁業管理学）
 寺田 竜太：農水産獣医学域水産学系（連合大学院農学研究科）（藻類学・水産植物学）
 山本 智子：農水産獣医学域水産学系（水産学部）（海洋生態学）

河合 溪：総合科学域総合研究学系（国際島嶼研）（海洋生物学）
高宮 広士：総合科学域総合研究学系（国際島嶼研）（先史人類学）
大塚 靖：総合科学域総合研究学系（国際島嶼研）（衛生動物学）
山本 宗立：総合科学域総合研究学系（国際島嶼研）（熱帯農学・民族植物学）
藤田 志歩：総合科学域総合教育学系（共通教育センター）（霊長類学・生態学・行動学）

学外協力研究者（敬称略）

石畑 清武：鹿児島大学名誉教授（熱帯園芸学）
上野 浩子：公益財団法人かごしま環境未来財団嘱託員（魚類寄生虫学）
大木 公彦：鹿児島大学名誉教授（第四紀層位学・微古生物学（底生有孔虫）、海洋質学）
鹿野 和彦：（地質学）
木下 紀正：鹿児島大学名誉教授（環境物理学、素粒子・原子核物理学）
坂元 隼雄：鹿児島大学名誉教授（地球化学、分析化学、環境化学）
櫻井 真：鹿児島純心女子短期大学生活学科教授（動物形態学、鹿児島県内野生生物の生態・分布調査、野生動物保存生態学）
塚原 潤三：鹿児島大学名誉教授（発生生物学）
土田 充義：鹿児島大学名誉教授（日本建築史）
中村 潤平：公益財団法人鹿児島水族館公社職員ハタ科魚類の分類および生物地理学的研究、鹿児島県の魚類相
福田 晴夫：鹿児島昆虫同好会（生物学、昆虫生態学 他）
福元しげ子：（アリ類の分類学）
藤井 琢磨：日本大学生物資源科学部専任講師（動物分類、サンゴ礁生物多様性、進化系統、生物地理）
星野 和夫：大分マリーナパレス水族館「うみたまご」飼育部企画グループリーダー（魚類分類学）
丸野 勝敏：（マメ科ハギ属カヤツリグサ科スゲ属植物の分類）
山下 智：鹿児島大学名誉教授（魚類・両生類・ほ乳類の味覚神経情報の比較生理学）
山根 正氣：鹿児島大学名誉教授（有剣ハチ類・アリ類の分類学および生物地理学）
湯川 淳一：鹿児島大学名誉教授・九州大学名誉教授（タマバエ類の分類学的及び生態学的研究）

専門部会

委員長 山本 智子（水産）
委員 鵜川 信（農） 栗和田 隆（教育）
寺田 竜太（連大） 大塚 靖（島嶼研）
総合研究博物館専任教員 4 名

2 2023 年度の企画事業

1. 市民講座

第 41 回市民講座「5 世紀の前方後円墳の内部を発掘する―大隅大崎・神領 10 号墳の石棺と副葬品―」

2023 年 7 月 29 日（土）13：30～15：00、総合研究博物館・橋本達也を講師として、オンラインによる市民講座を開催した。参加無料。

COVID-19 の影響からはじめたオンライン市民講座であるが、実際に遠方からも気軽に参加できるため博物館の普及活動の一つとして効果があるため、2021 年度以降継続して実施している。

内容は、研究報告 No.19 として刊行した大崎町神領 10 号墳の発掘調査成果のうち、埋葬施設・石棺および副葬品にかかわる研究を紹介するものである。

Google フォームを利用し、事前に申し込みを受け付けたところ、宮城県、千葉県や埼玉県などの東日本から兵庫・大阪、九州各地の 77 名からの申し込みがあった。講演は Zoom を利用した。講演は円滑に実施でき、また質疑応答でもスムーズに行えた。

COVID-19 対応は、ひとまず終息し、またオンラインへの参加のハードルも全体的に低くなってきたと思われる。これまで当館のイベントに参加できなかったような遠隔地から多くの参加者があり、オンラインを活用したイベントは非常に有益であるため、今後は対面とオンラインのハイブリッド化など取り組みの工夫が必要となろう。



第 41 回 市民講座（スライド）

2. 公開講座

第 5 回 バックヤードツアー「植物標本庫」

2023 年 12 月 10 日（土）10：00～12：00、13：00～15：00 総合研究博物館植物標本室にて。定員 7 名として募集をしたが、今年度は多数の参加申し込みがあり、午前と午後の 2 部に分けて計 13 名を対象に実施した。植物標本の作成を体得してもらいつつ、博物館における植物標本資料の意義やその利用、および収蔵庫における管理等の解説を行った。

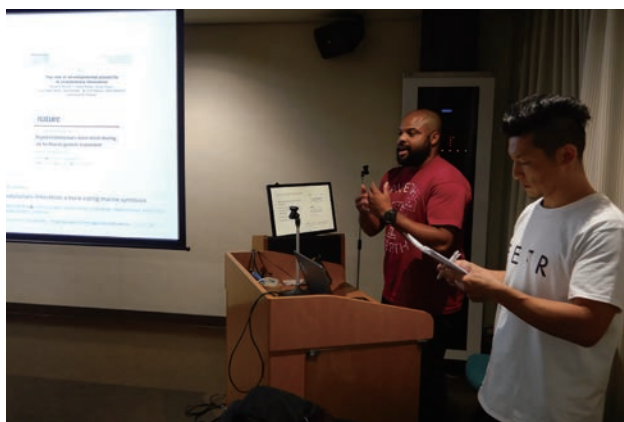


バックヤードツアー

3. 研究交流会

第 27 回研究交流会「魚のカタチ～形態が解き明かす進化史と社会にもたらす価値」

2023 年 5 月 24 日（水）の 16:00 から 18:00 まで、アメリカ・ライス大学の Kory Evans 氏とノースフロリダ大学の Maria Laura Habegger 氏をお招きし、郡元キャンパスの連合農学研究科 3 階会議室にて、第 27 回研究交流会を開催した。Evans 氏には「進化的モザイク、および進化的革新と統合の間の相互作用」と題して、魚類の 2 つの事例をもとに、それぞれの分類群がもつ顕著な進化的革新を形成する上で、形質の統合が果たした役割について解説して頂いた。Habegger 氏には「魚が教えてくれること～海洋生態系の基礎研究が社会にもたらす価値とは」と題して、魚類の形態の機能を解明することによって、社会にどう活用するか考える研究の最前線を分かりやすく紹介して頂いた。一般と大学生を中心に 36 名が聴講し、予定時間を超えた活発な質疑応答もあり、盛況であった。なお、講演は英語で行われたが、逐次通訳によって、日本語での聴講・質疑応答が行われた。



Kory Evans 氏



Maria Laura Habegger 氏



第 27 回研究交流会

4. 展示

第 21 回特別展「世界自然遺産地域、奄美大島・徳之島の自然―鹿児島大学における研究の最前線―」

2024 年 2 月 10 日（土）～ 3 月 1 日（金）、鹿児島大学附属図書館ギャラリーアトリウムにて。2021 年に沖縄島北部・西表島とともに世界自然遺産の登録地となった鹿児島の奄美大島・徳之島の自然や人の生活との関わりについて、本学 15 名の研究者が取り組んでいる調査研究活動を分かりやすく紹介する企画展示を行い、また 12 名の研究者による 6 回のギャラリートークを開催した。研究者の最新の知見を反映した企画内容であり、世界自然遺産の登録地である自然の価値や直面している問題について

て、学内外の市民に広く周知することができ、閲覧者やギャラリートーク参加者からのアンケート結果では総じて好評な感想が寄せられた。予算の都合で常駐のスタッフを配置せず、また附属図書館内であるため一般の図書館利用者との区別ができなかったこともあり、閲覧者数はカウントしていないが、中央図書館利用サービス係からは、「博物館の展示を見るため学外の方が日々多く来館されており、好評のようです」とのご連絡をいただいた。

<展示ポスターのタイトル、担当研究者、展示資料の一覧>

■第21回特別展「世界自然遺産奄美大島・徳之島－鹿児島大学における研究の最前線－」にあたって 田金秀一郎（当館）

■奄美群島の植物多様性 田金秀一郎（当館）

展示資料：当館植物標本室が収蔵する最も古くに奄美大島で得られた植物標本（ヘゴ）と奄美大島で約100年ぶりに再発見されたホソバナキミズの植物標本

■奄美の小中学校でみられる植物～校庭の植物から生物多様性を学ぶ～ 川西基博（教育学部）

展示資料：奄美の校庭でみられる植物の写真集

■奄美大島の川沿いの植生 川西基博（教育学部）

展示資料：サキシマスオウの果実、オキナワウラジログシのどんぐり、ゴバンノアシの果実

■奄美大島世界自然遺産地域の内外に分布する外来植物 鈴木英治（国際島嶼教育研究センター）

展示資料：奄美群島に定着している外来の樹木の標本（アカギ、ベニツツバナ、オオバナノセンダングサ）

■奄美大島の世界自然遺産地域における固有種保全の取り組み－自然環境モニタリングシステムの構築－ 嶋川 信（農学部）

展示資料：直径巻き尺、測程、バーテックス

■奄美大島における鳥類のモニタリング 榮村奈緒子（農学部）

展示資料：野鳥の鳴き声（音声：オオトラツグミ、アオバズク、リュウキュウコノハズク、ルリカケス、アカヒゲ、カラスバト、ズアカアオバト、リュウキュウアカショウビン、オーストンオオアカゲラ）、自動録音機、野鳥図鑑



第21回特別展

■奄美大島の哺乳類と保全のためのモニタリング 藤田志歩（共通教育センター）

展示資料：自動撮影カメラで撮影された動物の動画、自動撮影カメラ、松の実の食痕

■アマミノクロウサギが農家の悩みのタネに？ 高山耕二（農学部）

展示資料：アマミノクロウサギによる農作物被害対策マニュアル、徳之島のタンカン園でアマミノクロウサギの侵入防止に用いられている電気柵

■奄美群島の衛生動物 大塚 靖（国際島嶼教育研究センター）

展示資料：液浸標本2点（奄美大島で採集したアシマダラブユの雌成虫と幼虫）

■奄美群島の侵入害虫たち 坂巻祥孝（農学部）

展示資料：九州本土から南西諸島のゴマダラカミキリ類、*Aulacaspis yasumatsui*（仮称：ソテツシロカイガラ）とクロマダラソテツシジミ成虫の標本

■奄美大島の絶滅危惧種リュウキュウアユ 久米 元（水産学部）

展示資料：魚類標本2点（リュウキュウアユとアユ）

■干潟マングローブの底生生物 山本智子（水産学部）

展示資料：奄美大島住用干潟で底生生物群集の最優占種ミナミコメツキガニの標本、奄美大島・徳之島の干潟で見られる主なカニ類の標本（オキナワハクセンシオマネキ、ヒメシオマネキ、ベニシオマネキ）

■奄美大島から見つかった寄生生物 上野大輔（理学部）

展示資料：奄美大島で見つかったエンマノホネガイ、“たこさんウィンナー似の生物”ヤドリイツツノムシ属の1種、泥場で暮らす不思議なサンゴ「コモチハナガササンゴ」

■奄美大島の魚類多様性 本村浩之（当館）

展示資料：奄美大島から得られたスミゾメヤリミミズハゼの標本、奄美大島沖から漁獲されたドロゾメエソの標本、奄美大島沿岸から採集されたミナミウバウオの標本、奄美大島沖から採集されたニゲミズチンアナゴの標本、「ミステリーサークル」を作るアマミホシゾラフグの巣の写真、奄美大島の魚類図鑑、奄美群島の魚類図鑑

■奄美群島奄美大島における巻貝マガキガイ資源管理に関する研究 河合 溪（国際島嶼教育研究センター）

展示資料：奄美群島・奄美大島における巻貝マガキガイの貝殻標本

■自然と調和した島（？）：先史時代の奄美沖縄諸島高宮広士（国際島嶼教育研究センター）

展示資料：なし

<ギャラリートーク（12:10-12:40）の開催状況と参加者数>

2/13（火）鈴木英治・川西基博 11名

2/14（水）坂巻祥孝・鶴川 信 12名

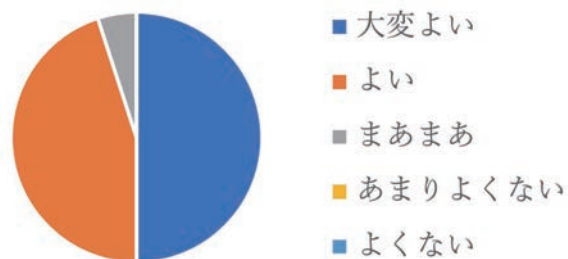
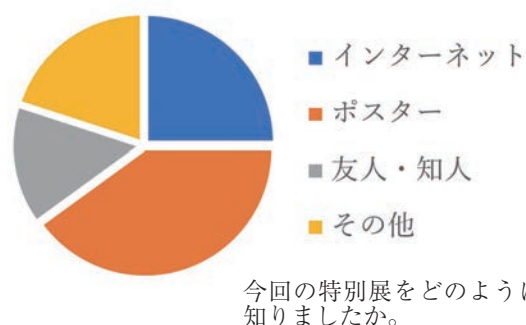
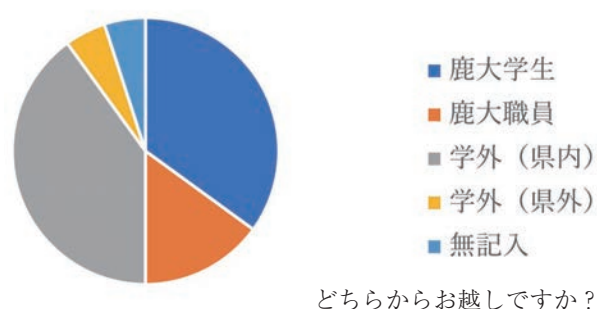
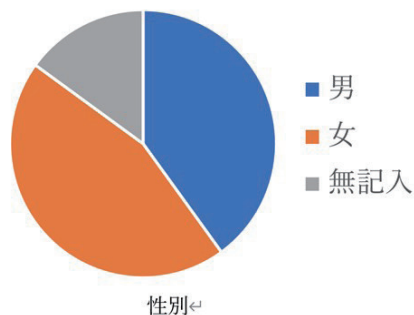
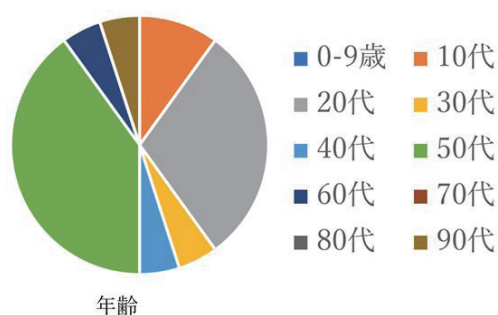
2/15（木）上野大輔・久米 元 8名

2/20（火）本村浩之・山本智子 12名

2/22（木）高山耕二・田金秀一郎 7名

2/26（月）大塚 靖・榮村奈緒子 7名

〈特別展アンケート結果〉



問 今回の展示で最も印象に残ったポスター・展示物はどれでしたか。

カニ／ソテツノカイガラムシ、プレパレート標本があまりに小さいことに驚いた／モニタリング／ソテツの新害虫／奄美群島の侵入害虫たち／アマミノクロウサギが農家の悩みのタネ？ アマミノクロウサギに興味があるから、知りたいと思った／アマミノクロウサギが農家の悩みのタネに？ 奄美の小中学校で見られる植物／100年以上前にとられたヘゴの標本が最も驚いた。タコさんウィナーのような小さ生き物もとても可愛いと思った／ゴマダラカミキリの標本／カメラトラップの映像。鳥の音声データ／どれも素敵でした／アマミノクロウサギ／アマミノクロウサギの農作物被害、奄美大島の魚類／アマミノクロウサギ／森林のモニタリングやブユの調査結果は参考になった／全部のポスターが印象に残りましたが、興味があるものが植物の多様性と外来種について。奄美に生息する鳥の鳴き声を聴くことができたのも感激でした。水産無脊椎動物のヤマタロウヤドリツノムシもかわいらしい姿にほっこりした／ホソバノキミズが日本で絶滅したと考えられていたのが、奄美大島で見つかったというところ。奄美の植生には本州とは違った環境があるのだと知れたところ／奄美の植生（川西先生） 大きいドングリや種子／エビフライがかわいいと思いました／①鳥類モニタリング、②リュウキュウアユや魚類、③アマミノクロウサギ／

問 今回の展示における感想や改善点、および今後希望する企画等がございましたら、ご意見ををお願いします。

次回も楽しみにしています／県立博物館が12/23-2/25まで奄・徳之島展を開催しているが、全くお互いに独立しているのが残念。情報収集や相補体制をつくるなど、まだまだ未熟だと思いました／これらのパネルを冊子にしたらありがたい／さらに明るくなる方がいいと思う。ポスターをかける所は少し暗い／学生への周知。春休み期間で通学していない学生が多いため、もったいないと思った。より多くの人に見てもらおうと思う／研究者の最新の知見を反映した展示、大変興味深かった。世界遺産の奄美・徳之島の人の生活と共存関係について

知ることができた／全体を通したストーリーが欲しかった。それぞれの解説は良かった／体験できるものが欲しかった。一般市民が何をすべきか考えさせられる展示でした。／機会がありましたら爬虫類、両生類について取り上げていただければと思う／客観的視点がとても良いと思った／持ち帰りできる資料を作ってほしい／ギャラリートークについて、ギャラリートークの短い時間ではもったいない程、豊富な内容でした。今後 Zoom や対面での講演会などあったら良いと思う／またいろいろ企画してください／ソテツがかれているのが驚きました／とても面白く見させていただきました。

5. その他の活動

(1) かごしま水族館連続体験講座「いおっ子海っ子体験塾」

かごしま水族館連続体験講座「いおっ子海っ子体験塾」の一環として、「魚の形の謎を探る」をテーマに、2023 年 6 月 25 日に総合研究博物館で見学・実習講座を実施した。小学 4 年から中学 3 年の 16 名とかごしま水族館の職員 4 名が参加した。魚類標本庫の見学と解説、鹿児島島の魚類の多様性や新種発見の話、子供たちが標本庫から自分で選んだ好きな魚の形態観察、さかなクイズ大会などを行った。



いおっ子海っ子体験塾

(2) 鹿大祭くじ

鹿大祭の際には常設展示室に多数の来館者が見込まれる。2020 年度から前年度までは COVID-19 対応のため開館を中止せざるを得なかったが、2023 年度は久しぶりに開館とした。ただし、展示室は狭い閉鎖的な空間であるため、密になりすぎないように入館者数を調整する必要がある。そこで、常設展示室の外に受付を設け、同時入館者数を 20 名までとすることとし、時間調整と博物館のアピールをかねて、来館へのプレゼントのくじ引きを用意した。

あたりくじは昭和 50 年代頃の実験用ガラス器各種、ラベルがなく標本としての価値を損なった貝化石である。子どもにはハズレの際も化石はプレゼントした。来館者からは好評であったと思う。



鹿大祭くじ

(3) モニタリングワークショップ「モニタリング調査に参加してみませんか」

(主催：鹿児島大学鹿児島環境学研究会、共催：環境省奄美群島国立公園管理事務所、後援：瀬戸内町、龍郷町、大和村、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター、鹿児島大学総合研究博物館)

2023年11月12日(日)奄美大島龍郷町、2023年11月18日(土)奄美大島大和村、11月19日(日)奄美大島瀬戸内町にて。

奄美大島では、保全すべき固有の植物が生育する一方、外来植物の侵入も確認されており、その両方を含む植物相の変化をモニタリングすることが求められている。しかしながら、専門家のみで奄美大島全域をモニタリングしていくことは現実的ではない。将来にわたるモニタリングを鑑み、奄美大島在住の方々に奄美群島での植物相モニタリングの必要性和その手法について理解を深めていただくことを目的として、講習会と植物観察会を開催した。

講習会では奥山正樹氏(鹿児島大学南九州・南西諸島域イノベーションセンター)による開会挨拶および趣旨説明が行われた後、鶴川信氏(鹿児島大学農学部)と鈴木英治氏(鹿児島大学国際島嶼教育研究センター)によって植物相モニタリング方法の説明がなされた。龍郷町では15名、大和村では15名、瀬戸内町では25名の参加者があり、植物観察会では秋名・幾里集落(龍郷町)、フォレストポリス(大和村)、蘇刈集落(瀬戸内町)にて調査を行い、それぞれの地域で確認された外来植物、それぞれ47種、65種、87種類について情報を収集し、分布マップが作成された。

(4) モニタリングワークショップ「植物分布モニタリング調査と分布マップの作成」

(主催：鹿児島大学鹿児島環境学研究会、共催：環境省奄美群島国立公園管理事務所、後援：奄美市、瀬戸内町、龍郷町、大和村、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター、鹿児島大学総合研究博物館)

2024年3月3日(日)13:00～16:00、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室にて。上述の2023年11月に実施した講習会以降の地域住民の方々との協力により得られた植物モニタリングの成果について、地域と共有し、また広く周知する目的でワークショップを開催した。当館は前回に続いて後援として参画し、活動を支援した。

ワークショップでは、19名(対面13名+オンライン6名)の参加者があり、まず川西基博氏(鹿児島大学教育学部)による講演「校庭で植物の多様性を調べてみよう」が行われ、調査報告として地元の村上裕希氏(秋名・幾里集落)、國宗弓穂氏(蘇刈集落)、および鹿児島大学農学部の鶴川信氏(大和村フォレストポリス)による今年度実施した植物相調査の結果報告が行われた。その後、鈴木英治氏(鹿児島大学国際島嶼教育研究センター)による「植物分布マップの作り方とモニタリングへの活用」と題した講演がなされ、今年度の成果報告や分布マップの作成手順などが報告された。ワークショップ最後のパネルディスカッションでは、より多くの住民参加を得るための方策として、学校行事として実施する、高齢者の健康づくりのため公民館講座として開催する、エコツアーガイドが指導者となって実施する、地域の文化として利用している植物について学べるようにするなど、多彩なアイデアが出され、活発な意見交換が行われた。

3 常設展示室

1. 入館者数

常設展示室 月別入館者数 2023 年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
総入館者数	230	150	111	101	109	88	88	369	94	35	59	49	1483
団体	0	8	0	18	25	44	14	8	0	0	0	0	117
一般	230	142	111	83	84	44	74	361	94	35	59	49	1366
開館日数	20	19	21	21	20	20	21	21	19	20	17	20	239

曜日別入館者数 2023 年度

	火	火	水	水	木	木	金	金	土	土	日	日	月	月	合計		
	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	総計
4 月	0	49	0	69	0	39	0	38	0	35	0	0	0	0	0	230	230
5 月	8	44	0	28	0	22	0	23	0	25	0	0	0	0	8	142	150
6 月	0	13	0	19	0	28	0	33	0	18	0	0	0	0	0	111	111
7 月	0	20	18	6	0	15	0	19	0	23	0	0	0	0	18	83	101
8 月	0	2	0	8	25	19	0	13	0	29	0	0	0	13	25	84	109
9 月	0	8	44	20	0	6	0	7	0	0	0	0	0	3	44	44	88
10 月	0	22	0	15	0	12	14	19	0	6	0	0	0	0	14	74	88
11 月	0	8	0	5	8	14	0	10	0	136	0	188	0	0	8	361	369
12 月	0	31	0	20	0	16	0	15	0	12	0	0	0	0	0	94	94
1 月	0	11	0	4	0	1	0	5	0	13	0	0	0	1	0	35	35
2 月	0	16	0	9	0	22	0	12	0	0	0	0	0	0	0	59	59
3 月	0	4	0	3	0	7	0	19	0	16	0	0	0	0	0	49	49
合計	8	228	62	206	33	201	14	213	0	313	0	188	0	17	117	1366	1483
	236		268		234		227		313		188		17		1483		

今年度の総入館者数は 1483 名で、昨年度に比べ 219 名増加している。団体が 54 名の減少、一般が 273 名の増加だった。新型コロナ 5 類移行で 4 年ぶりに大学祭の特別開館を実施し、2 日間で 318 名の来館があった。

2. 利用・活用状況

今年度の団体利用は以下のとおりである。

大学関係

- ・新入生オリエンテーション 工学部海洋土木工学科
- ・大学訪問（指宿高校・熊本北高校） ・教育学部講義 地学概論 II

学外

- ・伊敷史談会

3. 室内環境

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
1 階ケース温度 (℃)	19.7	21.8	23.0	25.6	26.4	25.6	21.6	18.1	15.4	14.3	16.6	16.1	20.4
1 階ケース湿度 (%)	59.8	63.2	67.5	67.8	65.9	65.1	62.6	60.8	53.8	50.7	58.2	55.4	60.9
2 階ケース温度 (℃)	20.2	22.3	22.8	25.9	27.3	26.1	21.7	19.4	17.0	15.8	17.3	16.9	21.1
2 階ケース湿度 (%)	57.9	58.3	58.5	56.6	57.3	61.1	60.3	56.7	47.7	46.2	55.3	53.8	55.8

4. 常設展示室アンケート

アンケート集計結果

1) 年齢

小学生以下 17名 中学生 6名 高校生 14名 大学生・大学院生 40名
上記以外の10代 0名 20歳代 10名 30歳代 15名 40歳代 13名
50歳代 30名 60歳代 22名 70歳以上 9名 無回答 1名

2) 居住地

鹿児島市内 81名 鹿児島県内 15名 鹿児島県外 37名
大学関係者(学生・教職員) 43名 無回答 1名

3) 常設展示室を知った理由

立て看板 77名 ホームページ 28名 ポスター 9名
授業・講座等 17名 人にすすめられて 21名 その他 25名 無回答 0名

4) 感想

大変よい 96名 よい 79名 どちらともいえない 0名
つまらない 1名 大変つまらない 0名 無回答 1名

5) 感想・意見・要望等

アンケート177件中144件に自由記述欄の記入があった。

内容を見てみると全般的な感想としては、「県土が広く自然環境が多様であることを再認識した(市内・60代)」「遺跡からの出土品はもちろんだが、自分たちが日常で使ってきたものもいつかは歴史遺産となっていくことをあらためて感じた(県内・60代)」「桜島についてネットで検索していて見つけ市内観光のついでに来館した。地質や化石の展示はシンプルだが想像以上の情報量が込められていて訪れ甲斐があった(県外・20代)」などがあった。

展示内容については、「様々な年代の土器をじっくり見られることが貴重だと思った(鹿大生)」「朝ドラの『らんまん』に出てきた胴乱の実物がみられてよかった(市内・60代)」などがあった。

その他に意見・要望として、「キャンパス内に川が流れていたことに驚いた。興味深いものも多く展示されているのにあまり人に知られていないのはもったいない(鹿大教職員・50代)」「建物が登録有形文化財に登録された経緯がわかる説明があったらよい(県外・大学生)」「生物系の展示が少ないのが残念。地域の生物についてももっと取り上げてほしい(県外・40代/市内・高校生)」「展示解説やバックヤードツアーなど、さまざまな企画を展開してほしい(市内・60代)」などがあった。

5. 常設展示室 展示品目録－2023年度－(2022年度からの変更点)

当該年度は変更を行っていない。

6. 常設展示室の課題

今年度の総入館者数は1483名で、昨年度に比べ219名増加した。年度前半の4～9月と11月は各月とも昨年度より入館者数が増加した。一般の入館者数は273名の増加だったが、団体の入館者は59名減少し、学外からの団体利用は1件だけだった。

アンケートには、常設展示について「展示内容を更新してほしい(市内・40代)」、「もう少し頻繁に展示の入れ替えがあればまた来たいと思える(鹿大生)」、広報について「イベントの告知が遅い。いつも気づいた時には終わっている(市内・50代)」「他館にチラシを置くなどもっと広報に力を入れてほしい(市内・30代)」などの声が寄せられている。

4年ぶりに実施した11月の大学祭特別開館では2日間で318名の来館があり、学内外から幅広い年代の方に足を運んでいただいた。アンケートには、「大学祭で博物館があることを初めて知った」「大学の歴史を感じられた」「珍しいもの、興味深いものが見られてよかった」といった感想のほか、「見ただけではわからないものも多いので、展示解説をしてほしい」「大学祭でしか見られない特別展示などがあつたらよかった」といった意見や、混雑する時間帯には「騒がしくてゆっくり見られなかった」「ガラスケースが汚れたままになっていた」といった指摘もあった。

また、模擬店で購入した飲食物等で展示ケースや階段を汚損する、ふざけて展示台に乗り上げたり室内を走り回る、備品・展示物を乱暴に扱うといった迷惑行為や、他の見学者につきまとうといった不審者事案も発生しており、安全面にも問題があった。混雑緩和のため入館人数の制限は行っていたものの、職員配置は通常開館時同様、館内全体で1名のみだったため監視の目も行き届かず、キャプションや展示資料が破損される被害も出ている。大学祭開館においては、博物館見学が目的ではない不特定多数の来館があるため、過去にも通常時には想定されないトラブルが発生している。

展示室の観覧環境および展示資料の保全のため、見学者に対し掲示や声かけで観覧マナーへの協力をお願いするだけでなく、入口・1階・2階にそれぞれ人員を配置して誘導、監視、清掃を適切に行い、安全のため男性職員が常に一人は在館する、といった体制の見直しが必要である。

新型コロナウイルス対策について 5月の5類移行以後も感染対策には留意し、手すりやスリッパなど多くの方が手を触れる場所への定期的な消毒や、空調設備による換気につとめている。また、来館者に向けては「咳エチケット」や密を避けてのご見学へのご協力も引き続きお願いしている。

アシジロヒラフシアリの大発生による被害 隣接する植物園から侵入するアシジロヒラフシアリに対して、昨年度より導入したハイドロジェルベイト剤による防除を中心として、年間を通して対策を行っている。

展示室内でのアリの発生は2月末から12月までと長く、展示室内と屋外（当館敷地内）にベイト剤を設置し、月に1～2回交換している。ベイト剤に誘引、滞留するため、室内への大量侵入の頻度や数は以前よりは抑制されているが、床に散乱したアリの片づけたり、壁・天井に行列を作るアリの駆除するために一時的に展示室を閉めておかなければならないような日もある。

展示室近くに巣があると容易に室内に侵入し、駆除が追い付かなくなってしまうので、アリが巣を作るような落ち葉の堆積や、雑草が繁茂するような場所ができないよう、展示室周辺的环境整備にも努めている。



壁・天井に行列を作るアリ



壁・天井に行列を作るアリ



警備センサーに群がるアリ



コンセントに群がるアリ



ベイト剤に誘引されるアリ（室内）



ベイト剤に誘引されるアリ（屋外）

4 教育活動

博物館実習・博物館学関連講義

博物館実習 総合研究博物館では、博物館実習の学内実習を分担で担当している。実習受講登録学生は法文学部9名、教育学部2名、理学部6名、水産学部9名、計26名であった。

4月26日、5月6日は田金が担当し、植物標本室にて植物のさく葉標本の作成・データベース化（台紙への貼り付け、ラベル情報の入力、標本のスキャンによるデジタル画像化）を行い、143点の植物標本の情報をデータベースに登録し、311点の標本画像を取得した。

5月13日、20日は本村が担当し、博物館標本作成室で魚類の液浸標本の作製、登録、撮影作業を行い、およそ200点の標本を新規登録した。

橋本は4月22日に水産学部・教育学部、5月6日に法文学部・理学部の実習を担当し、博物館に関わる全分野の基本技術である写真に関する実習を行った。まずは、カメラ・写真に関する基礎知識について説明を行い、理解を深めた後に撮影台の設営から、考古資料の撮影まで行った。全員が一眼レフカメラで撮影するまでを行っている。またあわせて、近年急速に進展しているフォトグラメトリによる3Dデータ作成の解説を行い、そのための資料撮影を行った。また日誌作成中に解析を進め、実習終了時にプロジェクターで確認を行った。また、法文学部学生1名がコロナ感染のため別日実習となったため、5月22日に写真撮影と軟X線による鉄器撮影の実習を行った。（橋本）。

博物館学関連講義 学芸員資格取得のための講義は、資格の取得可能な法文学部・教育学部・理学部・水産学部が受講する科目として共通教育において開講されているが、総合研究博物館の教員も分担して担当している。橋本は、博物館教育論・博物館展示論の責任教員として担当、各2名の非常勤講師の調整を行いつつ講義を実施している。本村・田金は、博物館資料論を分担で実施している（橋本）。



博物館実習・植物標本の作製・登録



博物館実習・考古資料撮影実習作品



博物館実習・魚類標本の作製

5 出版・広報

2023 年度の出版物は下記のとおりである。

ニュースレター 総合研究博物館にかかわる情報を掲載した通常号を 1 冊と特別展の情報を掲載した 1 冊、計 2 冊刊行した。

ニュースレター No.49 は、総合研究博物館スタッフおよび学外協力研究者、大学院生の研究紹介からなる 6 件の記事を掲載した。著者とタイトルは下記のとおりである。全 16 ページ。

増田迂直墓誌について 永山修一

増田迂直墓誌の構造と移設 橋本達也

収蔵標本を活用した植物相調査と絶滅危惧種の保全―長崎県対馬の事例― 山本武能

JSTOR Global Plants における植物のタイプ標本の公開 田金秀一郎

マレーシア・クアantanの魚類多様性に関する国際共同調査 本村浩之

大型魚類標本の保管スペースの移設 本村浩之

ニュースレター No.50 は下記の 17 件の記事を掲載した。

第 21 回特別展「世界自然遺産奄美大島・徳之島―鹿児島大学における研究の最前線―」にあたって
田金秀一郎

奄美群島の植物多様性 田金秀一郎

奄美の小中学校でみられる植物～校庭の植物から生物多様性を学ぶ～ 川西基博

奄美大島の川沿いの植生 川西基博

奄美大島世界自然遺産地域の内外に分布する外来植物 鈴木英治

奄美大島の世界自然遺産地域における固有種保全の取り組み―自然環境モニタリングシステムの構築―
鵜川信

奄美大島における鳥類のモニタリング 榮村奈緒子

奄美大島の哺乳類と保全のためのモニタリング 藤田志歩

アマミノクロウサギが農家の悩みのタネに？ 高山耕二

奄美群島の衛生動物 大塚靖

奄美群島の侵入害虫たち 坂巻祥孝

奄美大島の絶滅危惧種リュウキュウアユ 久米元

干潟・マングローブの底生生物 山本智子

奄美群島における水産無脊椎動物の研究 上野大輔

奄美大島の魚類多様性 本村浩之

奄美群島・奄美大島における巻貝マガキガイ資源管理に関する研究 河合溪

自然と調和した島(?)：先史時代の奄美・沖縄諸島 高宮広士

その他出版物 総合研究博物館関連出版物として下記を刊行した。

Bulletin of the Kagoshima University Museum, 20

An annotated checklist of marine and freshwater fishes from Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records
Motomura, H.

年報 毎年1冊、前年度分の年報刊行を行ってきたが、2020年度以降COVID-19の影響で企画事業数が少なくなったため、2ヶ年で1冊のペースとなっている。2023年度刊行の年報No.20は、2021年度と2022年度分を1冊として刊行した。

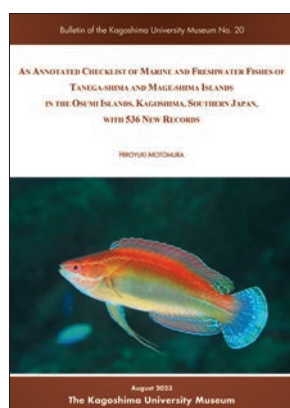
Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 魚類学の基礎的知見の蓄積を目的とし、日本産魚類の分類や分布、生態などの自然史に関するあらゆる分野の論文を和文で掲載する、2020年10月に創刊した査読付きオンラインジャーナル。総合研究博物館が発行。2023年度は69論文が出版された。論文は当館HP (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>) やJ-Stage (<https://www.jstage.jp/browse/ichthy/list/-char/ja>) で公開している。

ポスター・チラシ 特別展のための広報用ポスターを印刷した。企画展示などのチラシは担当教員が作成し、プリンターでプリントして掲示、配布した。

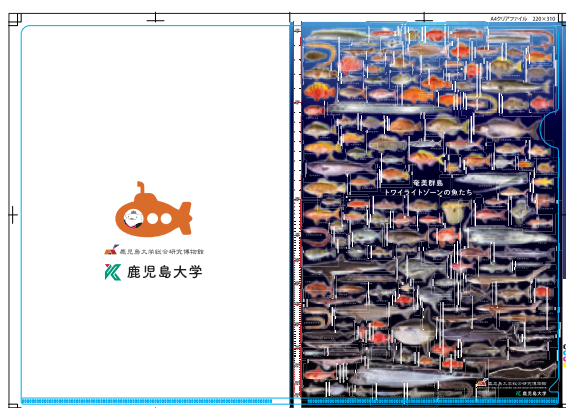
鹿児島大学インフォメーションセンターで販売するオリジナルグッズの一つとして、本学総務課広報・渉外室広報係が魚類のクリアファイルを作成した。総合研究博物館所蔵の魚類写真が用いられた。

その他広報 ホームページ、ブログ、Twitter を継続的に更新している。ホームページは橋本、ブログは上村、Twitter は教員3人(橋本・本村・田金)で担当している。

2023年9月14日に南日本新聞の取材があり、11月6日に「かごしま大学施設探訪〈4〉」として総合研究博物館の紹介が掲載された。



2023年度研究報告
Bulletin of the
Kagoshima University
Museum, 20



クリアファイル



南日本新聞
2023年11月6日

6 ボランティア活動

魚類標本の作製・登録・データベース化 総合研究博物館では2006年度から魚類標本の受け入れおよび標本の作製を積極的に行っている。ボランティアは本学学生、一般市民、漁業従事者、水族館職員など多彩な構成である。ボランティアの活動は、大きく分けると魚類の採集、学習会、標本の作製と保存、および教育普及活動の4つの要素から成る(詳しくは『総合研究博物館ニュースレター No. 16』と総合研究博物館出版『魚類標本の作製と管理マニュアル』を参照)。本年度は宮崎大学と鹿児島県環境技術協会から移管された標本と鹿児島県産の標本を中心に約10,000標本の登録を行い、標本データのデータベースと、約30,000件の画像データベースを作成した。

魚類ボランティア学習会 2024年3月13日に共同利用棟2Fでボランティア学習会として、トレンガヌ大学准教授のYusof Shuaib Bin Ibrahim博士をお招きし、Microplastics in marine environment と題して海洋環境におけるマイクロプラスチック研究の最前線について講演して頂



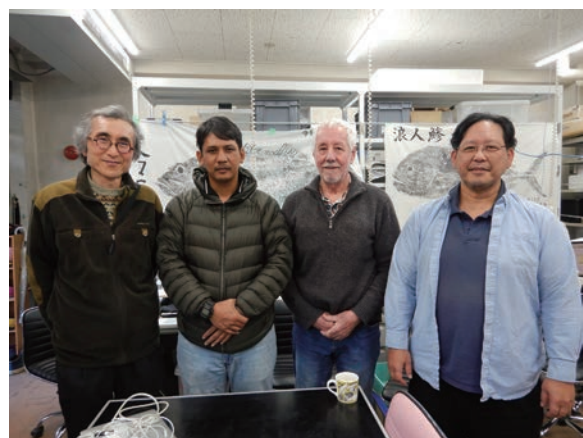
ボランティア学習会の様子

いた。17名の博物館ボランティアと総合研究博物館に滞在中であったオーストラリア・ノーザンテリトリー博物館・美術館のBarry Russell博士が聴講し、活発な質疑応答が行われた。

植物標本の登録・データベース化 植物標本室では、本学の学生4名が毎週火曜日の午後に博物館ボランティア活動を実施している。通年を通して、未整理標本のデータベース登録や台紙への貼り付け、収蔵室への配架作業等を行った。また、学外の1名にはマウント作業(標本貼り)を中心に標本整理にご協力いただいた。

7 国際交流

魚類分野 フィリピン大学ビサヤス校の大学院生を2022年12月から2023年6月まで受け入れ、修士論文研究の指導を行った。また、アメリカのライス大学とノースフロリダ大学の研究者とその学生7名を5月13-26日に、インドネシアのボゴール動物学博物館の研究者を7月12-15日に、オーストラリアのノーザンテリトリー博物館・美術館の研究者を3月12-21日に受け入れて共同研究を実施した。一方、9月18-26日にマレーシアのトレンガヌ大学とクアタンの共同調査を実施した。10月12-21日にアメリカのカリフォルニア科学アカデミー・スミソニアン国立自然史博物館・ドレクセル大学自然科学アカデミー、11月20日から12月10日にかけて、ニュージーランドのオークランド大学、オーストラリアの



中央左がマレーシア・トレンガヌ大学のYusof Shuaib Bin Ibrahim博士、中央右がオーストラリア・ノーザンテリトリー博物館・美術館のBarry Russell博士。Russell博士は総合研究博物館所蔵のエソ科標本を調査するために来学。



沖縄科学技術大学院大学のFabienne Ziadi-Künzli博士。ツノザメ科魚類の標本調査のため来学。

オーストラリア博物館・オーストラリア連邦科学産業研究機関、12月19-23日にタイ国立科学博物館にて共同研究や標本調査を行った。さらに、アメリカ、イギリス、フランス、オランダ、ドイツ、マレーシア、ニュージーランド、オーストラリアに大学院生を派遣した。アメリカのワシントン大学・テキサス A&M 大学、ドイツのフランクフルト自然史博物館、マレーシアのトレンガヌ大学・サバ大学・サインズ大学、ベトナムの国立自然史博物館、オーストラリアのノーザンテリトリー博物館・美術館、タイの国立科学博物館、フィリピンのフィリピン大学・科学教育機構などと共同研究を実施し、8 論文を出版した。

植物分野 ラオス国立大学、ベトナム科学技術アカデミー生態学生物資源研究所、ミャンマー森林研究所、タイ王立森林局、サラワク森林局、サラワク州森林公社、エジンバラ植物園、ニューヨーク植物園、国立清華大学（台湾）、アンタナナリボ大学の研究者と共同研究を実施し、東南アジアまたはマダガスカルの植物に関する 7 本の論文を出版し、学会で 3 件の発表を行った。また、プロンタウ国立公園（マレーシア）、アンカラファンツィカ国立公園（マダガスカル）、ヌイチュア国立公園（ベトナム）、ナムカディン国家保護区（ラオス）、ウムパーン（タイ）にて野外調査を行い、現地の研究者と交流を図った。

8 標本管理活動

1. 植物標本室

植物標本室（KAG）のデータベース化 植物標本室では収蔵する植物標本の全容把握とその管理・利便性向上のため、植物標本のデータベース化を 2003 年から継続して実施している。本年度においても、鈴木英治氏（前館長、現国際島嶼教育研究センター）、および一般財団法人沖縄美ら島財団との共同研究「西表植物誌編纂事業のためのデータベース」と科研費「鹿児島県の植物相解明に向けた維管束植物標本のデータベース整備と活用」の遂行に伴って雇用した技術補佐員 1 名（西原茉莉氏）と共に、標本整理・データベース化作業を進めた。

2023 年度は 6,980 点の植物標本を KAG データベースに登録し、植物標本室のウェブサイト (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/hyouhonsitu.html>; 2024/4/25 の時点で 160,714 件を公開) および島根大学生物資源科学部デジタル標本館 (<http://tayousei.life.shimane-u.ac.jp/harbarium/>) にて公開を行った。また、これらの標本情報のうち 7,000 件をサイエンスミュージアムネット (S-Net <http://science-net.kahaku.go.jp>) に提供し、公開を進めた。

2023 年 1 月に世界規模での植物標本館ネットワークである JSTOR Global Plants (<https://plants.jstor.org/>) とパートナー契約を交わし、KAG が収蔵するタイプ標本の高解像度画像の提供を開始した。初年度は本学農学部の教授であった初島住彦氏が記載した植物の新分類群を中心に 40 点の標本画像を提供し、公開を進めた。KAG には現在までに約 200 点の「タイプ」とされる標本が確認されており、これらの真偽やタイプの種別の確認作業を丁寧に進め、次年度以降も順次公開していきたい。

学外研究者等による研究活動 学外研究者の丸野勝敏氏は、2022 年度に引き続き、ご自身が採集された植物標本約 2 万点を整理するため、標本室に時折来館され、標本ラベル作成などの作業に従事された。

新規植物標本の受け入れ・寄贈状況 2023 年度は田金が野外調査を通して 695 点（鹿児島県内から 185 点、マダガスカル・タイから 510 点）の植物標本を DNA 解析用試料と共に収集し、KAG データベースに登録した。学外の方から次の点数の標本を寄贈標本として賜った：中川弥智子氏（1,611 点）、藤井伸二氏（149 点）、新原修一（110 点）、立久井昭雄氏（5 点）、菊田彰夫（2 点）、大西亘（2 点）、矢野興一（1 点）。加えて、埼玉県在住の有馬氏からも、百点余りの標本をご寄贈いただき、現在整理・

登録作業を進めている。

植物標本の利用状況 植物標本資料と写真や遺伝子解析用のサンプルなどのそれに付随する資料の活用状況を以下の表に記す。インターネット上で公開している KAG データベースの閲覧者数については、1,588 件（2021 年）、3,022 件（2022 年度）、1,978 件（本年度）と推移している。

植物標本の利用状況（インターネット上の KAG データベース閲覧者は除く）

利用年月	貸し出し・利用者の所属先	分類群	点数	目的
2023 年 4 月	東京都立大学	Guettarda, Timonius	7	研究
2023 年 4 月	東京都立大学	Begonia	1	研究
2023 年 4 月	神奈川県立 生命の星・地球博物館	Carex	3000	研究
2023 年 6 月	埼玉県	鹿児島県の植物	約 30	同定依頼
2023 年 6 月	北九州市	Listera	3	研究
2023 年 7 月	福島大学	Chamaegastrodia	10	研究
2023 年 7 月	名古屋大学	Plants of Cambodia	600	研究
2023 年 8 月	東京都立大学	Camptosperma, Trema, Arthrophyllum, Pometia	84	研究
2023 年 8 月	岡山理科大学	Malus	9	研究
2023 年 8 月	九州オープンユニバーシティ	Lophatherum	1	研究
2023 年 9 月	国立中興大学（台湾、2 名）	Clematis	50	研究
2023 年 10 月	埼玉県	鹿児島県の植物	約 20	同定依頼
2023 年 10 月	九州オープンユニバーシティ	Lophatherum, Oplismenus	41	研究
2023 年 11 月	鳥取大学	Carex	56	研究
2024 年 1 月	京都大学	Ophiopogon, Liriope	236	研究
2024 年 1 月	京都大学	Carex	7211	研究
2024 年 1 月	京都大学	Aspidistra, Tupistra, Rohdea, Chlorophytum	約 30	研究
2024 年 1 月	タイ森林局	Urophyllum, Solanum	約 100	研究
2024 年 2-3 月	南種子町	果実・種子標本	50	展示

2. 動物標本の利用状況

2023 年度の総合研究博物館所蔵動物標本・資料の利用状況を報告する（学内での利用数は膨大であるため除く）。

動物標本の利用状況

貸出・利用年月	分類群	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
2023 年 4 月	魚類	標本画像	50	佐賀県庁	研究
2023 年 4 月	魚類	標本画像	1	Universiti Sains Malaysia, Malaysia	研究
2023 年 4 月	魚類	標本画像	2	テレビ朝日	研究
2023 年 4 月	魚類	標本画像	2	南日本新聞	研究
2023 年 4 月	魚類	液浸標本	18	国立科学博物館	研究
2023 年 4 月	魚類	筋肉組織	22	国立科学博物館	研究
2023 年 4 月	魚類	筋肉組織	5	千葉県立中央博物館	研究
2023 年 4 月	魚類	筋肉組織	13	Universiti Malaysia, Malaysia	研究
2023 年 4 月	魚類	標本画像	9	日本テレビ	番組
2023 年 5 月	魚類	標本画像	3	千葉県立中央博物館	研究
2023 年 5 月	魚類	標本画像	2	University of North Florida, USA	研究
2023 年 5 月	魚類	液浸標本	4	北里大学	研究
2023 年 5 月	魚類	標本画像	40	北里大学	研究
2023 年 6 月	魚類	筋肉組織	1	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2023 年 6 月	魚類	液浸標本	27	Smithsonian Institute, USA	研究
2023 年 6 月	魚類	液浸標本	8	北里大学	研究
2023 年 6 月	魚類	筋肉組織	15	北海道大学	研究
2023 年 6 月	魚類	標本画像	45	琉球大学	研究
2023 年 6 月	魚類	液浸標本	2	沖縄科学技術大学院大学	研究
2023 年 6 月	甲殻類	液浸標本	1	琉球大学	研究
2023 年 6 月	魚類	標本画像	1	MBC 南日本放送	番組

2023 年 6 月	魚類	標本画像	2	東京大学総合研究博物館	研究
2023 年 6 月	魚類	液浸標本	1	東京大学総合研究博物館	研究
2023 年 6 月	魚類	液浸標本	43	University of the Philippines Visayas, Philippines	研究
2023 年 6 月	魚類	標本画像	38	高知大学	研究
2023 年 6 月	魚類	標本画像	12	株式会社かんきょう社	研究
2023 年 7 月	魚類	標本画像	378	沖縄科学技術大学院大学	研究
2023 年 7 月	魚類	液浸標本	6	(公財) 海洋生物環境研究所	研究
2023 年 7 月	魚類	標本画像	13	(公財) 海洋生物環境研究所	研究
2023 年 7 月	魚類	標本画像	34	California State University, USA	研究
2023 年 7 月	魚類	液浸標本	3	かごしま水族館	展示
2023 年 7 月	魚類	標本画像	508	高知大学	研究
2023 年 7 月	魚類	標本画像	27	京都大学	研究
2023 年 8 月	甲殻類	液浸標本	1	北海道教育大学	研究
2023 年 8 月	魚類	筋肉組織	12	三重大学	研究
2023 年 8 月	魚類	標本画像	1684	高知大学	研究
2023 年 8 月	魚類	標本画像	287	Zhejiang Ocean University, China	研究
2023 年 8 月	魚類	液浸標本	5	国立科学博物館	研究
2023 年 8 月	魚類	標本画像	232	高知大学	研究
2023 年 8 月	魚類	液浸標本	3	Pukyong National University, Korea	研究
2023 年 8 月	魚類	筋肉組織	3	Pukyong National University, Korea	研究
2023 年 8 月	魚類	標本画像	73	環境省	研究
2023 年 8 月	魚類	標本画像	17	始良市教育委員会社会教育課文化財係	企画展
2023 年 9 月	魚類	標本画像	132	東京大学総合研究博物館	研究
2023 年 9 月	魚類	標本画像	1222	北海道大学	研究
2023 年 10 月	魚類	液浸標本	5	Rice University, USA	研究
2023 年 10 月	魚類	標本画像	2	国立科学博物館	研究
2023 年 10 月	魚類	液浸標本	1	世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ	展示
2023 年 10 月	甲殻類	液浸標本	9	石垣市	研究
2023 年 10 月	魚類	筋肉組織	7	九州大学	研究
2023 年 11 月	魚類	筋肉組織	16	北海道大学	研究
2023 年 11 月	魚類	液浸標本	41	京都大学	研究
2023 年 11 月	魚類	筋肉組織	12	京都大学	研究
2023 年 11 月	魚類	液浸標本	31	京都大学	研究
2023 年 11 月	魚類	筋肉組織	1	京都大学	研究
2023 年 11 月	魚類	液浸標本	3	京都大学	研究
2023 年 11 月	魚類	標本画像	280	水産大学校	研究
2023 年 11 月	魚類	標本画像	3	NHK	番組
2023 年 11 月	魚類	標本画像	1	Universiti Malaysia Terengganu	研究
2023 年 12 月	魚類	標本画像	7	株式会社エコリス	研究
2023 年 12 月	魚類	標本画像	63	三重大学	研究
2023 年 12 月	魚類	液浸標本	21	東邦大学	研究
2024 年 1 月	魚類	液浸標本	4	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2024 年 1 月	魚類	液浸標本	11	京都大学	研究
2024 年 1 月	魚類	液浸標本	231	国立科学博物館	研究
2024 年 1 月	魚類	液浸標本	6	国立科学博物館	研究
2024 年 1 月	魚類	液浸標本	3	Wilfrid Laurier University, Canada	研究
2024 年 1 月	魚類	筋肉組織	3	Wilfrid Laurier University, Canada	研究
2024 年 1 月	魚類	液浸標本	8	Australian Museum, Australia	研究
2024 年 1 月	魚類	筋肉組織	7	Australian Museum, Australia	研究
2024 年 1 月	魚類	標本画像	6	柴田書店	本
2024 年 2 月	魚類	液浸標本	21	琉球大学	研究
2024 年 2 月	魚類	筋肉組織	2	琉球大学	研究
2024 年 2 月	魚類	標本画像	2	讀賣新聞	新聞
2024 年 2 月	魚類	標本画像	2	南日本新聞	新聞
2024 年 2 月	魚類	標本画像	2	南海日日新聞	新聞
2024 年 2 月	魚類	標本画像	2	南日本新聞	新聞
2024 年 2 月	魚類	筋肉組織	8	琉球大学	研究
2024 年 3 月	魚類	標本画像	1	柴田書店	本
2024 年 3 月	魚類	標本画像	6	琉球大学	研究

2024 年 3 月	魚類	標本画像	14	株式会社 Gakken	図鑑
2024 年 3 月	魚類	標本画像	2	共同通信	新聞
2024 年 3 月	魚類	標本画像	84	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2024 年 3 月	魚類	液浸標本	8	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2024 年 3 月	魚類	筋肉組織	7	北九州市立自然史・歴史博物館	研究

合計 85 件 5950 点

3. その他の標本等の管理・利用

資料の登録 鹿児島高等農林学校の植物採集において、新聞には含まれたまま保管された予備標本が大量に存在しており、その標本および新聞の整理・登録を継続している。とくに新聞は稀少資料を含む可能性があるため、新聞名・年月日等の基本情報に加えて、記載記事見出しのテキストデータの登録を行っている。2023 年度は約 150 件の登録を行った。

鹿児島高等農林学校の得業論文等の資料データの登録、整理を継続して行っている。

理学部地球環境科学科（旧地学科）から移管された化石標本について、標本収蔵状態に問題があり、資料情報も不明なものが多いため、整理・再収納を継続的に行っている。23 年度は約 29 件の標本箱の整理を行った。1 箱には 20 ～ 60 点程度の標本が入っている。

資料の受け入れ 教育学部付属特別支援学校から、旧鹿児島大学教育学部附属養護学校時代の正門に設置していた銘板の寄贈があった。

かつて医学部に所属された鹿児島市内在住の方から、医学部で不要となった古い顕微鏡を譲受けていたものを当館へ寄贈があった。

医歯学総合研究科口腔病理学分野より、来歴不明の古人骨写真（ポジ・スライド）等資料を段ボール 3 箱分寄贈いただいた。おそらくかつての小片丘彦・歯学部教授研究室時代のものとみられるが、詳細は今後検討を行う。

理学部より貝化石等を中心とする地学標本 166 点を受け入れた。

理工学研究科地域コトづくりセンター中央実験工場より、来歴不明の工具を受け入れた。呉海軍工廠で使用されていた測定器・測定ゲージなどからなる。

資料の問い合わせ等 形ノ山化石標本を利用した研究発表 2 件、動物骨格標本を利用した研究発表 1 件について連絡、内藤喬教授（鹿児島高等農林学校・鹿児島大学）資料、資料寄贈に関する問い合わせ 3 件、写真情報の問い合わせなどがあった。

資料の利用 以下の表のとおり利用があった。

2023 年度のその他標本の利用状況

利用年月	標本・資料	利用形態	点数	利用先	目的
2023 年 7 月	七高アルバム	閲覧・借用	4	「鹿児島の近代」教育研究センター	調査・展示
2023 年 7 月	考古学図書	閲覧・借用	1	学内	研究
2023 年 10 月	歴史図書	閲覧・借用	1	学内	研究
2024 年 2 月	地図資料	閲覧・借用	1	学内	研究
2024 年 3 月	神領 10 号墳出土土器	借用（継続）	5	国立歴史民俗博物館	常設展示

9 2023 年度 専任教員の活動業績

橋本 達也 [教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「古代東アジアの王陵」担当

共通教育科目「博物館展示論」担当

共通教育科目「博物館教育論」担当

2) その他

「博物館実習」担当

(2) 研究活動

1) 論文等 (査読無)

橋本達也 2024.3 「島内 139 号地下式横穴墓の甲冑」えびの市教育委員会 67-70

橋本達也 2024.3 「島内 139 号地下式横穴墓出土の鳴鏑」えびの市教育委員会 75-77

橋本達也 2024.3 「島内 139 号地下式横穴墓出土の骨鏃」えびの市教育委員会 78-81

2) 調査報告

橋本達也・沢田むつ代・志賀智史・青笹基史・三好裕太郎・平井洸史 2024.3 『島内 139 号地下式横穴墓 III』えびの市文化財調査報告書第 63 集 えびの市教育委員会

橋本達也 2024.3 「島内 174 号～179 号地下式横穴墓の三次元計測」『島内地下式横穴墓群 VII』えびの市埋蔵文化財調査報告書第 64 集 えびの市教育委員会 pp. 29-42

3) その他

橋本達也 2023.12 「「盾形銅鏡」の系譜—行燈山古墳・津堂城山古墳出土銅板の再評価—」『第 19 回古代武器研究会発表資料集』古代武器研究会事務局 p. 84

橋本達也 2023.12 「増田迂直墓誌の構造と移設」『鹿児島大学総合研究博物館 Newsletter』No.49 鹿児島大学総合研究博物館 pp.7-8

4) 学会・研究会発表

橋本達也 2023.12.16-17 「「盾形銅鏡」の系譜—行燈山古墳・津堂城山古墳出土銅板の再評価—」第 19 回古代武器研究会

寺前直人・渡部森哉・松本直子・橋本達也・藤澤敦・山口徹 2024 年 3 月 「攻撃と文明 対談 2 政治化する武器—我々とかれらの区分—」新学術領域研究 (研究領域提案型) 2019 年度～2023 年度 「「出ユーラシア」の統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明」第 10 回全体会議

橋本達也 2023 年 10 月 15 日 企画展講演会「島内武人とヤマト政権」えびの市歴史民俗資料館

橋本達也 2023 年 9 月 24 日 M・C みはらシリーズ講座みはら学びのすすめⅢ ミニシンボジウム黒姫山古墳の消えた石棺を考える「黒姫山古墳の埋葬施設・石棺を考える—推定・阿蘇溶結凝灰岩製石棺の立場から—」堺市立みはら歴史博物館

橋本達也 2023 年 7 月 29 日 鹿児島大学総合研究博物館第 41 回市民講座「5 世紀の前方後円墳の内部を発掘する—大隅大崎・神領 10 号墳の石棺と副葬品—」オンライン

(3) 外部資金

研究代表者

基盤研究 B 2022 年度～2025 年度 陪冢と大量器物埋納の再分析に基づく巨大古墳群の構造把握と社会複雑化過程の研究

研究分担者

新学術領域研究 (研究領域提案型) 2021～2023 年度「集団の複合化と戦争」(松木武彦・国立歴史民俗博物館教授ほか 6 名との共同研究)

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等

文化財保存全国協議会全国委員

鹿児島県考古学会幹事

九州前方後円墳研究会幹事

古代武器研究会幹事

東串良町唐仁古墳群保存活用検討委員会委員

鹿屋市岡崎古墳群検討委員会委員

2) 調査指導・協力

2024 年 2 月 20 日 指宿市尾長谷迫遺跡発掘調査指導

2024 年 2 月 17 日 鹿屋市教育委員会岡崎古墳群発掘調査指導

2023 年 12 月 26 日 鹿屋市名主原遺跡発掘調査指導 (鹿児島県立埋蔵文化財センター)

2023 年 10 月 3 日 都城市相原第 1 遺跡出土遺物整理調査指導

2023 年 6 月 27 日 えびの市島内 179 号地下式横穴墓調査指導

(5) 学内委員

放射線安全管理委員会委員

学芸員資格科目委員会委員

総合研究博物館 第 41 回市民講座 担当

(6) 調査研究

大崎町神領 10 号墳の研究

(7) 報道関係

2023 年 11 月 6 日「かごしま大学施設探訪〈4〉総合研究博物館」南日本新聞

2023 年 10 月 19 日「プレミアム+1 孤高の古墳 被葬者は将軍級か 百舌鳥でも古市でもない黒姫山古墳」
産経新聞夕刊コメント

2023 年 7 月 28 日「皇室スケッチ 日本最大の古墳の名称は？」毎日新聞 コメント

その他取材対応：共同通信

本村 浩之 [教授]

(1) 教育活動

1) 専門教育

農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学倫理特論」

農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究 I」

農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究 II」

農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究 III」

農林水産学研究科専門科目「生物環境科学特別講義」

大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別演習」(前期・後期)

大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別研究」(前期・後期)

2) その他

博物館資料論 (前期)

博物館実習 (前期)

博物館実習 (理系学部合同) 事後指導 (後期)

3) 研究教育

主査：博士課程 6 人、修士課程 9 人、学部 2 人

副査：博士課程 1 人、修士課程 3 人

(2) 研究活動

1) 研究論文 (査読付)

是枝伶旺・緒方悠輝也・本村浩之. 2023 (Apr.). 宮崎県初記録のミミズハゼ属 6 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 31: 6-13. Doi: 10.34583/ichthy.31.0_6 (8 Apr. 2023).

古橋龍星・藤原恭司・本村浩之. 2023 (Apr.). 鹿児島湾から得られた九州沿岸初記録のアゴアマダイ科魚類 *Opistognathus flavidus* バナナアゴアマダイ (新称). *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 31: 19-23. Doi: 10.34583/ichthy.31.0_19 (9 Apr. 2023).

畠中柚菜・出羽優風・本村浩之. 2023 (Apr.). 標本に基づく日本初記録の *Monocentris chrysadamas* ヤマブキマツカサウオ (新称). *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 31: 24-30. Doi: 10.34583/ichthy.31.0_24 (12 Apr. 2023).

Hata, H., S. Lavoué, S. V. Bogorodsky, T. J. Alpermann and H. Motomura. 2023 (Apr.). A new *Stolephorus* (Teleostei: Clupeiformes: Engraulidae: Engraulinae) from the Red Sea. *Ichthyology & Herpetology*, 111 (2): 191-203. Doi: 10.1643/i2022064 (13 Apr. 2023).

Hoshino, K., Y. Sakurai and H. Motomura. 2023 (Apr.). First Japanese records of the Indo-Pacific scorpionfish (Scorpaenidae) *Scorpaenodes corallinus*, with a re-evaluation of coronal spines as a diagnostic character. *Species Diversity*, 28 (1): 123-131. Doi: 10.12782/specdiv.28.123 (26 Apr. 2023).

佐藤智水・出羽優風・松岡 翠・出羽慎一・本村浩之. 2023 (May). 大隅諸島硫黄島から得られた北限更新記録を含む同属初記録の魚類 23 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 32: 7-12. Doi: 10.34583/ichthy.32.0_7 (6 May 2023).

古橋龍星・本村浩之. 2023 (June). コクチスナゴハゼの奄美大島と宮古島からの初めての記録、および本種の標徴と性的二型に関する再評価. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 33: 1-9. Doi: 10.34583/ichthy.33.0_1 (6 June 2023).

Piah, S. A. M., H. H. Lee, N. A. A. Latiff, L. L. Wong, J. Okamoto, H. Motomura, S. Kimura and Y. G. Seah. 2023 (June). First record and distribution extension of two emperor fishes, *Lethrinus semicinctus* and *Lethrinus olivaceus* to the east coast of Peninsular Malaysia. *Sains Malaysiana*, 52 (4): 1037-1046. Doi: 10.17576/jsm-2023-5204-01 (June 2023).

村瀬敦宣・渋谷風雅・長友伸二郎・緒方悠輝也・大衛亮正・本村浩之・瀬能 宏. 2023 (June). 水中写真に基づく宮崎県南部沿岸域の魚類相とその生物地理学的組成. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 33: 33-114. Doi: 10.34583/ichthy.33.0_33 (30 June 2023).

山口 縁・高久 至・松本達也・本村浩之. 2023 (July). 遠州灘、紀伊半島、および屋久島から得られたヒメサツマカサゴの記録と形態的・遺伝的特徴. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 34: 1-8. Doi: 10.34583/ichthy.34.0_1 (3 July 2023).

Hata, H. and H. Motomura. 2023 (July). Description of *Stolephorus horizon* n. sp. from Fiji and Tonga, and redescription of *Stolephorus scitulus* (Fowler, 1911) (Teleostei: Clupeiformes: Engraulidae). *Taxonomy*, 3 (3): 356-380. Doi: 10.3390/taxonomy3030021 (4 July 2023).

松沼瑞樹・本村浩之. 2023 (July). 沖縄島中城湾から得られた日本初記録のダルマガレイ属魚類 *Engyprosopon mozambiquense* ヨリメダルマガレイ (新称) と *E. parvipectorale* キバヨリメダルマガレイ (新称). *魚類学雑誌*, doi: 10.11369/jji.23-016 (21 July 2023), 70 (2): 167-177 (5 Nov. 2023).

佐藤智水・本村浩之. 2023 (July). 種子島から得られた薩南諸島初記録および北限記録のウシオニハゼ. *魚類学雑誌*, doi: 10.11369/jji.23-015 (21 July 2023), 70 (2): 237-241 (5 Nov. 2023).

是枝伶旺・藤井星渚・本村浩之. 2023 (July). 佐渡島から得られた新潟県初記録のヤリミミズハゼ. *Ichthy*,

- Natural History of Fishes of Japan, 34: 28-32. Doi: 10.34583/ichthy.34.0_28 (27 July 2023).
- 是枝伶旺・久木田直斗・日比野友亮・本村浩之. 2023 (Aug.). 薩摩半島(鹿児島県本土)と徳之島・与論島(奄美群島)から得られた北限更新を含むタツウミヘビの記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 35: 28-34. Doi: 10.34583/ichthy.35.0_28 (28 Aug. 2023).
- Fujiwara, K., H. Motomura and G. Shinohara. 2023 (Sept.). *Opistognathus ctenion* (Perciformes, Opistognathidae): a new jawfish from southern Japan. ZooKeys, 1179: 353-364. Doi: 10.3897/zookeys.1179.109813 (14 Sept. 2023).
- 幸大二郎・中村潤平・齊藤智顕・柏木伸幸・本村浩之. 2023 (Sept.). 鹿児島県甌島列島から得られた北限記録のヨウジウオ科魚類 *Solegnathus (Solegnathus) lettiensis* Bleeker, 1860 シンカイスミツキヨウジ(新称). 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.23-021 (15 Sept. 2023), 70 (2): 193-197 (5 Nov. 2023).
- 古橋龍星・本村浩之. 2023 (Sept.). ドロゾメエソとツケアゲエソの国内からの追加記録と両種の識別形質および分布の再検討. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 36: 5-16. Doi: 10.34583/ichthy.36.0_5 (28 Sept. 2023).
- 畑瑛之郎・本村浩之. 2023 (Sept.). 奄美大島から得られた薩南諸島初記録のイモリザメ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 36: 17-21. Doi: 10.34583/ichthy.36.0_17 (28 Sept. 2023).
- 幸大二郎・遠藤広光・本村浩之. 2023 (Sept.). 高知県と鹿児島県本土初記録のヨウジウオ科ヒナヨウジ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 36: 22-24. Doi: 10.34583/ichthy.36.0_22 (28 Sept. 2023).
- Matsumoto, T. and H. Motomura. 2023 (Oct.). Taxonomic review of the *Neomerinthe bucephalus* species group (Teleostei: Scorpaenidae), with description of a new species from Vanuatu. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-023-00926-0 (27 pp.; 7 Oct. 2023), 71 (1): 13-39 (7 Jan. 2024).
- 畑瑛之郎・田島奏一朗・樋之口蓉子・本村浩之. 2023 (Oct.). 鹿児島湾北部の天降川河口から得られた標本に基づく国内南限記録のトサカギンボ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 37: 6-9. Doi: 10.34583/ichthy.37.0_6 (23 Oct. 2023).
- Koreeda, R., K. Maeda and H. Motomura. 2023 (Nov.). A new subtropical species of goby of the genus *Luciogobius* (Gobiidae) from southwestern Japan. Zootaxa, 5361 (3): 390-408. Doi: 10.11646/zootaxa.5361.3.5 (2 Nov. 2023).
- Matsumoto, T., N. Muto and H. Motomura. 2023 (Nov.). *Neomerinthe ignea*, a new species of scorpionfish (Teleostei: Scorpaenidae) from the western Pacific Ocean, with a review of records of *N. erostris* (Alcock 1896). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-023-00931-3 (6 Nov. 2023), 71: 317-332 (3 Apr. 2024).
- 中村潤平・是枝伶旺・前川隆則・本村浩之. 2023 (Nov.). 甌島列島と奄美大島から得られた鹿児島県初記録のハタ科魚類ハナスズキ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 38: 4-7. Doi: 10.34583/ichthy.38.0_4 (13 Nov. 2023).
- Hata, H., S. Lavoué, S. Chungthanawong and H. Motomura. 2023 (Nov.). A new species of *Thrissina* from the Andaman Sea and re-assessment of the taxonomic status of *Thrissina cuvierii* (Swainson, 1839) and *Thrissina malabarica* (Bloch, 1795) (Teleostei: Clupeiformes: Engraulidae: Coiliinae). Ichthyology & Herpetology, 111 (4): 549-562. Doi: 10.1643/i2023001 (14 Nov. 2023).
- Dewa, Y., S. Tashiro and H. Motomura. 2023 (Nov.). A new species of the genus *Enneapterygius* (Perciformes: Tripterygiidae) from Japan and the Philippines, with a synopsis and synonymy of related species. Zootaxa, 5374 (3): 333-360. Doi: 10.11646/zootaxa.5374.3.2 (17 Nov. 2023).
- Fujiwara, K., G. Shinohara and H. Motomura. 2023 (Nov.). Rediagnosis of *Lissonanchus* Smith 1966, a senior synonym of *Briggsia* Craig and Randall 2009 (Gobiesocidae), with notes on included species and their osteological characters. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-023-00938-w (12 pp.; 18 Nov. 2023).
- Hata, H. and H. Motomura. 2023 (Nov.). Redescription and extended distribution of the poorly known Australian anchovy, *Stolephorus advenus* (Actinopterygii: Clupeiformes: Engraulidae). Acta Ichthyologica et Piscatoria, 53: 209-216. Doi: 10.3897/aiep.53.109943 (24 Nov. 2023).
- Cabebe-Barnuevo, A. R., E. A. A. Obar, D. F. A. Penuela, H. Motomura, R. P. Babaran, and M. C. D. Malay. 2023 (Nov.). Two new records of moray eels representing genera *Gymnothorax* and *Strophidon* (Actinopterygii: Anguilliformes: Muraenidae) from the Philippines. Acta Ichthyologica et Piscatoria, 53: 217-226. Doi: 10.3897/aiep.53.108838 (24 Nov. 2023).
- Ishihara, S., B. C. Russell and H. Motomura. 2023 (Dec.). Reinstatement and redescription of the monacle bream *Scolopsis regina* Whitley 1937 (Perciformes: Nemipteridae). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-023-00940-2 (12 pp.; 6 Dec. 2023).
- 渡邊実紗・是枝伶旺・久米 元・本村浩之. 2023 (Dec.). 薩摩半島南岸沖から得られた鹿児島県本土初記録のヘリシロウツボ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 39: 5-8. Doi: 10.34583/ichthy.39.0_5 (26 Dec. 2023).
- 橋本慎太郎・本村浩之. 2023 (Dec.). 奄美群島喜界島から得られたウツボ科魚類ノコギリウツボ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 39: 26-30. Doi: 10.34583/ichthy.39.0_26 (30 Dec. 2023).
- 是枝伶旺・百瀬 樹・本村浩之. 2024 (Jan.). 薩摩半島から得られたミナミヒメハゼの記録, ヒメハゼ属の一種 *Favonigobius* sp. sensu Matsui et al. (2014) の国内における分布状況, および両種の標徴に関する新発見. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 40: 1-16. Doi: 10.34583/ichthy.40.0_1 (2 Jan. 2024).
- 是枝伶旺・本村浩之. 2024 (Jan.). 奄美大島初記録のワモンフグ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 40: 22-27. Doi: 10.34583/ichthy.40.0_22 (7 Jan. 2024).
- 畑瑛之郎・金井聖弥・本村浩之. 2024 (Jan.). 薩摩半島南岸沖から得られた北限記録のオグロオトメエイ. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.23-026 (10 Jan. 2023).
- Matsunuma, M., F. Tashiro and H. Motomura. 2024 (Jan.). First Japanese records of the flounders *Pseudorhombus elevatus* and *Pseudorhombus quinquocellatus* (Teleostei: Paralichthyidae) from Okinawa Island, Ryukyu Islands. Species Diversity, 29: 9-21. Doi: 10.12782/specdiv.29.9 (11 Jan. 2024).
- 松沼瑞樹・田城文人・本村浩之. 2024 (Jan.). *Pseudorhombus quinquocellatus* (ヒラメ科: ガンゾウビラメ属) の標準和名の改称. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 40: 28. Doi: 10.34583/ichthy.40.0_28 (11 Jan. 2024).
- 樋口聡文・瀬能 宏・高久 至・本村浩之. 2024 (Jan.). 標本に基づく日本初記録のイソギンボ科

- Petroscirtus xestus* カザハナニジギンボ (新称). 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.23-027 (15 Jan. 2024)
- 中島田正希・和田英敏・本村浩之. 2024 (Jan.). 長崎県初記録のオオクチケカツオ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 40: 48-53. Doi: 10.34583/ichthy.40.0_48 (26 Jan. 2024).
- 幸大二郎・本村浩之. 2024 (Jan.). 石垣島および北限記録となる鹿児島県本土から初めて記録されたヨウジウオ科ツノハトコ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 40: 54-57. Doi: 10.34583/ichthy.40.0_54 (26 Jan. 2024).
- 金井聖弥・武藤望生・本村浩之. 2024 (Jan.). 北海道日本海沿岸から得られた北限記録のクロメジナ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 40: 58-61. Doi: 10.34583/ichthy.40.0_58 (26 Jan. 2024).
- Dewa, Y., S. Harazaki and H. Motomura. 2024 (Jan.). *Enneapterygius sericus*, a new species of triplefin (Perciformes: Tripterygiidae) from the western Pacific Ocean. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-023-00945-x (13 pp.; 30 Jan. 2024)
- 中村潤平・山田守彦・本村浩之. 2024 (Feb.). 鹿児島県薩摩半島から得られた標本に基づく日本初記録のスズメダイ科魚類 *Chromis cinerascens* ワカタケスズメダイ (新称). 魚類学雑誌, 10.11369/jji.23-035 (6 pp.; 1 Feb. 2024)
- Sato, M. C. and H. Motomura. 2024 (Feb.). *Gobiodon spadix*, a new coral goby (Teleostei: Gobiidae) from southern Japan. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-024-00950-8 (10 pp.; 29 Feb. 2024)
- Matsunuma, M., H. A. Tuan, K. Tachihara, H. Hirasaka and H. Motomura. 2024 (Mar.). *Chelidoperca pulchella* and *C. pollux*, two new perchlet species (Serranidae) from the northwestern Pacific Ocean. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-024-00952-6 (17 pp.; 2 Mar. 2024)
- Matsunuma, M., Y. G. Seah, S. T. Sheikh Abdul Kadir, B. M. Manjaji-Matsumoto and H. Motomura. 2024 (Mar.). Distributional range extensions of *Onigocia grandisquama* (Platycephalidae) and *Soleichthys siammakuti* (Soleidae) in the South China Sea. Cybium, doi: 10.26028/cybium/2024-010 (4 pp.; 19 Mar. 2024).
- Matsumoto, T. and H. Motomura. 2024 (Mar.). *Neomerinthe ornithoptera*, a new species of scorpionfish (Teleostei: Scorpaenidae) from the southwestern Pacific Ocean, with a reassessment of the diagnosis for *N. pallidimacula* (Fowler 1938). Zootaxa, 5428 (1): 135-145. Doi: 10.11646/zootaxa.5428.1.7 (20 Mar. 2024).
- 橋本慎太郎・中村潤平・是枝伶旺・本村浩之. 2024 (Mar.). 屋久島から得られた国内 2 例目ならびに北限記録のタビオカウツボ. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.23-039 (5 pp.; 21 Mar. 2024)
- Fujiwara, K., H. Motomura, A. P. Summers and K. W. Conway. 2024 (Mar.). A new generic name for the "*Lepadichthys*" *lineatus* complex with a rediagnosis of *Discotrema*, a senior synonym of *Unguitrema*, and comments on their phylogenetic relationships (Gobiesocidae: Diademichthyinae). Vertebrate Zoology, 74: 279-301. Doi: 10.3897/vz.74.e113955 (28 Mar. 2024).
- 2) 研究論文 (査読なし)
- 中村潤平・宮崎 亘・豊福真也・本村浩之. 2023 (June). 鹿児島県の川内川水系で採集された国内外来魚アブラボテの記録. Nature of Kagoshima, 50: 7-10 (5 June 2023).
- Motomura, H. 2023 (Aug.) An annotated checklist of marine and freshwater fishes from Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 20: 1-250 (1 Aug. 2023).
- 3) 書籍
- 本村浩之 (総監). 2023 (June). 学研の図鑑 LIVE 魚 新版. Gakken, 東京. 296 pp. (13 June 2023).
- Motomura, H. 2024 (Mar.). The Ichthyofauna of the Koshiki Islands. Pp. 34-38. In Yamamoto, S., R. Terada and Y. Watanabe (eds.) The Koshiki Islands: culture, society, industry and nature. Hokuto Shobo Publishing, Tokyo (10 Mar. 2024).
- 本村浩之. 2024 (Mar.). 種子島の魚類. Pp. 97-104. 西之表市史編さん委員会 (編) 西之表市史. 第1編自然, 第3章生きものの世界, 第3節脊椎動物. 上巻. 株式会社ぎょうせい, 東京.
- 4) その他の出版物
- 本村浩之 (監). 2023 (May). Nature view オセアニアの魚図鑑. Newton 2023 年 7 月号, 122-133 (26 May 2023).
- 本村浩之. 2023 (June). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 29 オオアカムツ. さくらじまの海, 27 (1): 8.
- 本村浩之. 2023 (Sept.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 30 イチゴイソカサゴ. さくらじまの海, 27 (2): 8.
- 本村浩之. 2023 (Dec.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 31 バナナアゴアマダイ, No. 32 オオメアゴアマダイ, No. 33 シラタマアゴアマダイ. さくらじまの海, 27 (3): 8.
- 本村浩之. 2023 (Dec.). マレーシア・クアantanの魚類多様性に関する国際共同調査. 鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター, 49: 12-13.
- 本村浩之. 2023 (Dec.). 大型魚類標本の保管スペースの移設. 鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター, 49: 14.
- 本村浩之. 2024 (Feb.). 奄美大島の魚類多様性. 鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター, 50: 12-13.
- 本村浩之. 2024 (Mar.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 34 カザハナニジギンボ. さくらじまの海, 27 (4): 8.
- 本村浩之 (監). 2024 (Mar.). Nature view 世界の巨大魚. Newton 2024 年 5 月号, 124-133 (26 Mar. 2024).
- 本村浩之. 2024 (Mar.). 2022-2023 年に九州南部から琉球列島にかけて実施された調査に基づき発見された新顔の魚類. 南太平洋海域調査研究報告, 64: 64-65. (30 Mar. 2024).
- 5) 学会・シンポジウム等発表
- 畑瑛之郎・本村浩之. 2023 (2 Sept.). 鹿児島湾奥部の魚類相. 2023 年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Poster
- 有馬雄太・本村浩之. 2023 (2 Sept.). クロホシマンジュウダイの遺伝学的・形態学的再検討: インド洋と西太平洋に異所的に分布する 2 種および西太平洋内にみられる地理的 2 個体群. 2023 年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Poster
- 佐藤智水・本村浩之. 2023 (2 Sept.). タスジコバンハゼとコバンハゼ属の一種 5 の形態学的・遺伝学的比較. 2023 年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Poster

- 出羽優風・本村浩之. 2023 (2 Sept.). 南日本から確認されたセグロヘビギンボ類似種群の2未記載種. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Poster
- 金井聖弥・松崎浩二・日比野麻衣・本村浩之. 2023 (2 Sept.). 北海道羅臼町沖より得られたニシキギンボ科の1未記載属・種. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Poster
- 久高健飛・本村浩之. 2023 (2 Sept.). 日本産イラ属 (ベラ科) 3種の形態的・遺伝学的再検討. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Poster
- 吉田卓史・本村浩之. 2023 (2 Sept.). 日本から東南アジアに分布するマルヒラアジの遺伝的・形態的に異なる2型. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Poster
- 橋本慎太郎・本村浩之. 2023 (2 Sept.). 西太平洋から確認されたキントキダイ属の1未記載種. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Poster
- 樋口淳也・河合俊郎・本村浩之・Richardo P. Babaran・Martin F. Gomon. 2023 (2 Sept.). フィリピンパナイ島から得られたホウボウ科 *Lepidotrigla macrobrachium* Fowler, 1938 の2例目の記録. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Poster
- 是枝伶旺・前田 健・本村浩之. 2023 (2 Sept.). 琉球列島に生息する地下水性種“イドミミズハゼ”の分類学的検討. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Oral
- 樋口聡文・松沼瑞樹・本村浩之. 2023 (2 Sept.). ハチ *Apistus carinatus* (Bloch and Schneider, 1801) の新参異名とされていた *Apistus evolans* Jordan and Starks, 1904 の有効性. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Oral
- 松本達也・本村浩之. 2023 (2 Sept.). インド・太平洋に分布するマツバラカサゴ属 *Neomerinthe* の分類学的再検討および *Neosocorpaena* の有効性. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Oral
- 古橋龍星・本村浩之. 2023 (2 Sept.). *Synodus doaki* 類似種群 (エソ科アカエソ属) の分類学的再検討. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Oral
- 石原祥太郎・橋本慎太郎・是枝伶旺・古橋龍星・本村浩之. 2023 (3 Sept.). 鹿児島県トカラ列島の無人島, 臥蛇島と小臥蛇島の魚類相. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Poster
- 藤原恭司・本村浩之・篠原現人. 2023 (3 Sept.). 南西諸島から得られたアゴアマダイ属の1未記載種. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Poster
- Roxanne A. Cabebe・望月健太郎・本村浩之. 2023 (3 Sept.). インド・太平洋におけるネットアイフサカサゴ属の分子系統解析に基づく本属のフサカサゴ科内における単系統性と種間関係. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Poster
- 和田英敏・瀬能 宏・手良村知功・小枝圭太・本村浩之. 2023 (3 Sept.). 日本と台湾の黒潮流域から得られた標本と写真に基づくオガサワラカサゴの標徴および分布記録の再検討. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Poster
- 中島田正希・本村浩之. 2023 (3 Sept.). キンメダマシ *Centroberyx druzhinini* にみられた形態的二型, および九州からの追加記録. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Poster
- 中村潤平・是枝伶旺・金井聖弥・本村浩之. 2023 (3 Sept.). 深場の岩礁域で釣獲されたカンパチとヒレナガカンパチの胃内容物から得られた小型魚類. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Oral
- 松沼瑞樹・和田英敏・金井聖弥・田城文人・本村浩之. 2023 (3 Sept.). 日本産ヒラメ科ガンゾウビラメ属の分類学的再検討. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Oral
- 幸大二郎・本村浩之. 2023 (3 Sept.). 奄美群島と論島から得られたヨウジウオ科ダイダイヨウジ属の1未記載種. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Oral
- 中江雅典・本村浩之・昆 健志・千葉 悟. 2023 (4 Sept.). 日本魚類学会 ABS 対策チームのこれまでの活動および学会員へのお願い. シンポジウム「名古屋議定書の基礎と近年の動向を魚類学研究の視点で考える」. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学, 長崎. Oral
- Motomura, H. 2023 (22 Sept.). Fish collection building and procedures at the Kagoshima University Museum. Workshop on Marine Fish Taxonomy & Diversity. Biological Science Building, International Islamic University Malaysia, Kuantan.
- Matsumoto, T. and H. Motomura. 2023 (20 Nov.). Systematics of the scorpionfish genus *Neomerinthe* Fowler, 1935. 11th Indo-Pacific Fish Conference (IPFC) and Annual Conference of the Australian Society for Fish Biology. University of Auckland, Auckland. Oral
- Dewa, Y. and H. Motomura. 2023 (21 Nov.). Taxonomic review of the triplefin genus *Enneapterygius* (Tripterygiidae) in Japanese waters. 11th Indo-Pacific Fish Conference (IPFC) and Annual Conference of the Australian Society for Fish Biology. University of Auckland, Auckland. Poster
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2023 (21 Nov.). A preliminary revision of the clingfish subfamily Diademichthyinae (Gobiesocidae). 11th Indo-Pacific Fish Conference (IPFC) and Annual Conference of the Australian Society for Fish Biology. University of Auckland, Auckland. Poster
- Furuhashi, R. and H. Motomura. 2023 (21 Nov.). Species diversity of the synodontid genus *Synodus* Scopoli, 1777 in the Indo-Pacific Ocean. 11th Indo-Pacific Fish Conference (IPFC) and Annual Conference of the Australian Society for Fish Biology. University of Auckland, Auckland. Poster
- Hashimoto, S. and H. Motomura. 2023 (21 Nov.). Three distinct species included in specimens identified as *Priacanthus tayenus* (Priacanthidae) based on morphological and molecular analyses. 11th Indo-Pacific Fish Conference (IPFC) and Annual Conference of the Australian Society for Fish Biology. University of Auckland, Auckland. Poster
- Koreeda, R., K. Maeda and H. Motomura. 2023 (21 Nov.). Preliminary review of the interstitial gobiid genus *Luciogobius* Gill, 1859 in the Ryukyu Archipelago, Japan. 11th Indo-Pacific Fish Conference (IPFC) and Annual Conference of the Australian Society for Fish Biology. University of Auckland, Auckland. Poster
- Yuki, D., H. Endo and H. Motomura. 2023 (21 Nov.). Taxonomic review of the pipefish genus *Corythoichthys* Kaup, 1853 (Syngnathiformes: Syngnathidae) in the Pacific Ocean. 11th Indo-Pacific Fish Conference (IPFC) and Annual Conference of the Australian Society for Fish Biology. University of Auckland, Auckland. Oral
- 本村浩之. 2023 (11 Dec.). 鹿児島大学における魚類多様性研究に関わる海外遺伝資源利活用の事例. 令和5年度九州地区大学等名古屋議定書対応に係る勉強会, 鹿児島大学, 鹿児島.

Motomura, H. 2023 (21 Dec.). Ichthyological collection of the Kagoshima University Museum: Establishment, development, and utilization. The 4th Thailand International Symposium on Natural History Museums: Era of Ecosystem Restoration. Rama 9 Museum, National Science Museum Thailand, Pathum Thani. Poster

(3) 外部資金

日本学術振興会 科研費基盤研究 (B)「渡瀬線に代わる海洋生物における新たな生物地理境界線「大隅線」の検証」(代表)

日本学術振興会 科研費基盤研究 (B)「島嶼海岸生物の地理的分布に分散ネットワークが果たす役割：温暖化に伴う北上は容易か」(分担)

(4) 社会貢献・学外活動

インド・太平洋魚類国際会議 運営委員

マレーシア・トレンガヌ大学 教授/准教授昇進外部人事評価委員

オーストラリア博物館 客員研究員

Philippine Journal of Systematic Biology 誌 編集顧問

Taxonomy 誌 編集顧問

国際自然保護連合 種の保存委員

日本魚類学会 標準和名検討委員会 委員

日本魚類学会 ABS対策チーム 委員

日本魚類学会 代議員

日本動物分類学会 Species Diversity 誌 編集顧問

日本生物地理学会 Biogeography 誌 編集委員長

日本生物地理学会 評議員

日本分類学会連合 標準和名問題検討ワーキンググループ 委員

日本博物科学会 理事

かごしま水族館 評議員

鹿児島県自然環境保全協会 幹事

桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会 委員

出水ツルの越冬地生物多様性協議会 副会長

西之表市史自然部会 委員

和泊町の歩み編さん委員会 委員

第47回全国高等学校総合文化祭自然科学部門 審査員

(5) 学内委員等

総合研究博物館 館長

総合研究博物館 Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 編集委員長

ABS推進室 委員

企画・評価委員会 委員

グローバルセンター 兼務教員

国際島嶼教育研究センター 兼務教員

大学院農林水産学研究科 入試委員会 委員

大学院連合農学研究科 入試委員会 委員

大学院連合農学研究科 学位論文審査委員会 委員

大学院理工学研究科 学位論文審査委員会 委員

(6) 報道関係

鹿児島湾で泳ぐ“謎の巨大魚”相次ぐ目撃に専門家「生態系バランスが崩れるおそれ」グッド！モーニング

テレビ朝日, 2023年4月14日, 4:55-8:00

黄色い魚2種 鹿大生が和名。南日本新聞, 2023年4月16日

ザ！鉄腕！DASH！！日本テレビ, 2023年4月30日, 19:00-19:58

ワイルドライフ「薩南諸島 洋上の火山群 水中オーロラと巨大魚たちの海に迫る」NHK BSプレミアム 4K, 2023年5月1日, 19:30-20:59

絶景ぜんぶ見せます！世界自然遺産。NHK, 2023年6月11日, 14:00-

シューイチ。日本テレビ, 2023年7月16日, 7:30-10:25

家、ついて行ってイイですか？テレビ東京, 2023年7月16日, 21:00～

NHKスペシャル「深海2 紅海」NHK, 2023年7月23日

NHK さわやか自然百景「島根 日御碕の海」NHK, 2023年8月6日, 7:45-7:59

リア突WEST。世界の人だかりクイズ in タイ。朝日放送, 2023年8月20, 27日, 9月3, 10日, 13:25-13:55

青いリボン海中に彩り ハナヒゲウツボ西之表沖に生息。南日本新聞, 2023年9月16日

馬毛島東側海域で採集の魚 アゴアマダイ新種と判明 鹿大などのチーム国際誌に発表。南日本新聞, 2023年9月16日

シューイチ。日本テレビ, 2023年10月8日

Creature with 'large' mouth and pointy teeth found in ocean depths. It's a new species. Miami Herald, 17 Oct. 2023

リア突WEST。世界の人だかりクイズ in ニューカレドニア。朝日放送, 2023年10月29日, 13:25-13:55

かごしま大学施設探訪4 総合研究博物館 鹿児島大(鹿児島市)。南日本新聞, 2023年11月6日

ミミズハゼ新種確認 鹿大など研究チーム 屋久島以南に生息。南日本新聞, 2023年11月19日

アカアマダイ。ギョギョっと！サカナスター。NHK Eテレ, 2024年1月19日, 19:25-19:55 (監修)

カザハナニジギンボ 鹿大チーム屋久島で採取 院生が名付け親に。南日本新聞, 2024年2月7日

ワカタケスズメダイ かごしま水族館と鹿大の研究チーム 笠沙沖で採取. 南日本新聞, 2024年2月7日
 捨てたら二度と手に入らない—鹿児島大学の博物館長に聞く「標本」の価値— 横山瑠美さん記事 2024年
 2月15日
 新種のヘビギンボ発見. 頭の「テンテン」模様が特徴. 南海日日新聞, 2024年2月21日
 新種「テンテンヘビギンボ」 鹿大などチーム確認 頭部に水玉模様. 南日本新聞, 2024年2月27日
 新種「アカネコバンハゼ」発見 体に対するひれの色に特徴 鹿大研究チーム. 南海日日新聞, 2024年3月
 9日
 新種「アカネコバンハゼ」鹿大などのチーム発見 サンゴ礁生息、体色特徴. 南日本新聞, 2024年3月12日
 ギョギョっと！サカナスター. イズカサゴ. NHK Eテレ, 2024年3月15日, 19:25-19:55 (監修)

大西 佳子 [助教]

田金 秀一郎 [准教授]

(1) 教育活動

- 1) 全学共通教育
 集中講義「屋久島の環境文化Ⅰー植生ー」(後期)
- 2) その他
 博物館資料論 (前期)
 博物館実習事前事後指導 (前期)
 理学部地域自然環境実習 (前期)
 理学部多様性生物学基礎 (後期)

(2) 研究活動

- 1) 研究論文 (査読付)
 Yamamoto T., Souladeth P., Soutakone K., Kongxaysavath D., Tagane S. 2024. A new species and a new record of *Phanera* (Fabaceae) in Laos, with a lectotypification and a new combination for *P. involucrans*. *Phytotaxa* 640(2): 81–89.
 Komada N., Tagane S., Shimizu-kaya U., Iku A., Jelani N.S.B., Ling C.Y., Mizuno T., Gumal M.T., Pungga R.A.S., Itioka T. 2024. A checklist of showy mistletoe (Santalales, Loranthaceae) of Lambir Hills National Park in Sarawak, Malaysian Borneo. *Tropics* 33(1): 1–15.
 Suetsugu K., Nakamura Y., Nakano T., Tagane S. 2024. *Relictithismia kimotsukiensis*, a new genus and species of Thismiaceae from southern Japan with discussions on its phylogenetic relationship. *Journal of Plant Research* (2024). <https://doi.org/10.1007/s10265-024-01532-5>
 Tagane S., Phonepaseuth P., Souvannakhoummane K., Tanaka N., Nagahama A., Souladeth P. 2023. Additional new records of flowering plants from Bolaven Plateau, southern Laos. *Thai Journal of Botany* 15(2): 89–98.
 Kongxaisavath D., Tagane S., Yamamoto T., Vongthavone T., Phonepaseuth P., Vuong T.B., Trong P.Q., Souladeth P. 2023. Flora of Nam Kading National Protected Area VIII: Additional new records of flowering plants. *Natural History Bulletin for Siam Society* 65(2): 85–92.
 矢野興一・丸野勝敏・田金秀一郎. 2023. 鹿児島県本土で見出されたツシマスゲ (カヤツリグサ科. 莎草研究 25: 39–43.
 Nguyen Q.B., Quach V.T.E., Huynh H.D., Pham Q.T., Trong B.V., Yahara T., Tagane S., Dang V.S. 2023. A new species of *Psychotria* (Rubiaceae) from Bidoup-Nui Ba National Park, Vietnam. *Phytotaxa* 618: 188–194.
 山本武能, 米倉浩司, 阿部篤志, 天野正晴, 遠山弘法, 設楽拓人, 田金秀一郎, 長谷川文, 加島幹男, 梶田忠, 副島顕子, 内貴章世. 2023. 沖縄県西表島産希少植物の島内分布調査と記録の確認: 維管束植物相解明に向けて. *植物研究雑誌* 98(4): 178–191.
 Nagahama A., Sugawara T., Aung M.M., Poulsen A.D., Armstrong K.E., Tagane S., Tanaka N. 2023 (in press). Contributions to the flora of Myanmar IX: Five new distributional records of flowering plants from Chin State, Kachin State and Tanintharyi Region. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science Series B (Botany)* 49(2): 49–55.
 Ebihara A., Tagane S., Hirota S.K., Suyama Y., Nakato N., Kuo L.Y. 2023. Resurrection of *Spicantopsis hancockii* (Blechnaceae) as an endemic species to Taiwan – Reidentification of *Spicantopsis* in the Tokara Islands, Japan. *Taiwania* 68(2): 148–154.
- 2) 研究論文 (査読無)
 塚原一颯・川窪伸光・田金秀一郎. 2024. 鹿児島県肝属山地で新たに発見されたアマクサツトリモチ. *Nature of Kagoshima* 50: 193–195.
 鈴木英治・田金秀一郎. 2024. 鹿児島県の維管束植物分布図集補遺 III. *鹿児島植物研究会誌* 13: 14–17.
- 3) 書籍等
 一期一会、新種発見. *ビッグイシュー* (日本語版) vol. 471: 8–9
- 4) 学会・シンポジウム等発表
 Komada N., Tagane S., Shimizu-kaya U., Meleng P., Pungga R.S., Gumal M.T. Characteristics of host species and microhabitats of epiphyte assemblages in a Bornean lowland tropical forest. The 71st Annual Meeting of the Ecological Society of Japan, 16–21 March 2024, Yokohama National University, Yokohama
 田金秀一郎. まだまだ見つかる、鹿児島の植物. 日本植物分類学会第23回大会 公開シンポジウム『発見者

が語る植物の新種とその面白さ』。2023年3月9-12日。東北大学，仙台（招待講演）。

黒沢高秀・高野温子・田金秀一郎・白井匡人・秋廣高志。植物標本の誤同定 ～何をどうまちがうか～。日本植物分類学会第23回大会。2023年3月9-12日。東北大学，仙台。

根本智行・佐々木 凌・丸野勝敏・田金秀一郎・松尾歩・廣田峻・陶山佳久。MIG-seq法を用いたマメ科ハギ属の系統解析(2): サツマハギの分類学的再検討。日本植物分類学会第23回大会。2023年3月9-12日。東北大学，仙台。

杉山由佳・伊東拓朗・柿嶋聡・いがりまさし・田金秀一郎・山城考・藤井伸二・牧雅之。ユキノシタ科ネコノメソウ属イワボタン列における分化プロセスの検証。日本植物分類学会第23回大会。2023年3月9-12日。東北大学，仙台。

田金秀一郎・藤本悠太郎・野依航・Rabarison Harison・佐藤宏樹・北島薫。マダガスカル・アンカラファンツィカ国立公園における植物多様性インベントリ。日本植物分類学会第23回大会。2023年3月9-12日。東北大学，仙台。

田口裕哉・高橋大樹・伊東拓朗・田金秀一郎・菅原峻太・小栗恵美子・阿部晴恵・陶山佳久。邦産ビャクシン属ネズミサシ節における網羅的分子系統地理解析。日本植物分類学会第23回大会。2023年3月9-12日。東北大学，仙台。

吉田涼香・瀬戸口浩彰・山本将也・長澤耕樹・永野惇・田金秀一郎・井上康彦・倉田薫子。分子系統解析に基づく日本産シライトソウ属の分類学的再検討。日本植物分類学会第23回大会。2023年3月9-12日。東北大学，仙台。

Yu Jiaxin・阪口翔太・いがりまさし・須山知香・陶山佳久・廣田峻・矢原徹一・田金秀一郎・藤原正人・増田和俊・瀬戸口浩彰。遺伝解析と形態形質に基づく山陰型タチツボスミレの検証と新種記載。日本植物分類学会第23回大会。2023年3月9-12日。東北大学，仙台。

Koda R., Fujiwara T., Ebihara A., Tagane S., Matsumoto S., Shinohara W., Watano Y., Murakami N. Complete reticulogram of Japanese Microlepidoptera. The 87th Annual Meeting of the Botanical Society of Japan. 4-9 September, 2023. Hokkaido University.

鶴川信・川西基博・田金秀一郎・渡辺俊太郎・蜂須賀莉子・比江島尚真・藤田志歩・榮村奈緒子・鈴木英治。奄美大島における常緑広葉樹二次林の森林構造および種組成の時間的变化。第135回日本日本森林学会大会。2024年3月8-11日。東京農業大学，東京。

榮村奈緒子・藤田志歩・大重直明・蜂須賀莉子・比江島尚真・村中智明・畑邦彦・川西基博・田金秀一郎・渡部俊太郎・鈴木英治・鶴川信。奄美大島の森林における鳥類の音声モニタリング～フクロウ類2種の鳴声検出～。日本鳥学会2023年度大会。2023年9月15-17日。金沢大学。

藤田志歩・榮村奈緒子・鶴川信・川西基博・鈴木英治・田金秀一郎・渡部俊太郎。奄美大島保護区域における自動撮影カメラによる哺乳類相のモニタリング。日本哺乳類学会。2023年9月7-10日。琉球大学，那覇。

Ai Nagahama, Tagane S., Nguyen N.V., Hoang T.B., Kitamura S., Yahara T. Diversity of Leafing, Flowering, and Fruiting Phenology in East and Southeast Asia. The 10th EAFES International Congress. 17-20 July 2023. Jeju, Korea.

(3) 外部資金

環境研究総合推進費 「ゲノム情報と正確な同定にもとづく維管束植物の統合データベース構築と多様性指標・保全優先度の地図化技術の開発 (4-2301)」(分担)

日本学術振興会 科研費基盤研究 (C) 「鹿児島県の植物相解明に向けた維管束植物標本のデータベース整備と活用」(代表)

日本学術振興会 科研費基盤研究 (A) 「マダガスカル固有の進化適応から熱帯樹種の乾燥への適応戦略の本質を理解する」(分担)

日本学術振興会 国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B)) (分担) 「熱帯の植物多様性の総点検：生物学的種概念に基づいてタイ産単子葉植物の種を捉え直す」

一般財団法人沖縄美ら島財団 共同研究 「西表島植物誌編纂に係る植物標本データベースの作成」

長尾自然環境財団 研究者育成支援プログラム (CGF) 「Species diversity and conservation status assessment of the dye-yielding plants used by the indigenous people in Lam Dong Province, Vietnam」(プロジェクトコーディネーター)

独立行政法人国立科学博物館 「自然史系博物館所有の生物多様性情報」に関わるデータ提供

長尾自然環境財団 「ラオスとベトナムのカルスト地における植物の多様性評価」(代表)

(4) 社会貢献・学外活動

日本植物分類学会 標本問題対応委員会 委員

日本植物分類学会 普及推進委員会委員 委員

日本植物分類学会 英文誌 Acta Phytotaxonomica et Geobotanica 編集委員

鹿児島植物研究会 会誌編集委員

鹿児島自然環境保全協会 Nature of Kagoshima 編集理事

首都大学東京 客員研究員

Thai Forest Bulletin, Botany 編集委員

鹿児島県 希少野生動植物保護対策検討委員

鹿児島県立博物館 協議会委員

(5) 学内委員等

鹿児島大学理工学研究科 兼務教員

総合研究博物館 第5回バックヤードツアー「植物標本室」企画・担当

総合研究博物館 第21回特別展「世界自然遺産 奄美大島・徳之島の自然―鹿児島大学における研究の最前線―」企画・担当

(6) 主な植物調査

2024年3月13-24日 ラオス：Nam Kading National Protected Area

2024年2月24日 鹿児島県：城山

2024 年 2 月 18 日 鹿児島県：開聞岳
 2024 年 1 月 10 日 鹿児島県：さつま町
 2024 年 1 月 9 日 鹿児島県：桜島・曾於市
 2023 年 12 月 17 日 -12 月 28 日 ベトナム：Nui Chua National Park
 2023 年 11 月 21 日 -12 月 3 日 タイ：Umphang, 森林局植物標本館 (BKF)
 2023 年 10 月 27 日 -11 月 12 日 マダガスカル：Ankarafantsika National Park
 2023 年 10 月 18 日 鹿児島県：高隈山
 2023 年 10 月 13-16 日 鹿児島県：奄美大島
 2023 年 8 月 29 日 -9 月 12 日 ラオス：Nam Kading National Protected Area
 2023 年 8 月 10-22 日 マレーシア：Pulong Tau National Park
 2023 年 8 月 6 日 鹿児島県：日置市
 2023 年 7 月 30-31 日 鹿児島県：甑島列島
 2023 年 7 月 19-20 日 鹿児島県：大隅半島
 2023 年 7 月 11 日 木場岳
 2023 年 6 月 30 日 -7 月 3 日 国立科学博物館 (TNS) 標本調査
 2023 年 6 月 15-20 日 鹿児島県：与論島
 2023 年 6 月 9 日 鹿児島県：肝属山地
 2023 年 6 月 4 日 鹿児島県：霧島山系
 2023 年 4 月 30 日 鹿児島県：栗野岳
 2023 年 4 月 23 日 鹿児島県：高隈山
 2023 年 4 月 16 日 鹿児島県：長島町

(7) 報道関係

まるで「らんまん」主人公？絶滅寸前の希少植物の解明に奮闘する、科博研究員の仕事とは、Yahoo ニュース、
 2024 年 3 月 24 日 (取材協力)
 国内 94 年ぶり新属新種 鹿児島島の山中 植物「ムジナノシヨクダイ」、読売新聞 西部本社版夕刊 8 面、2024 年
 3 月 13 日
 新種ただけじゃなかった…国内で 94 年ぶり「新属」確認 肝付で発見の希少植物 「ムジナノシヨクダイ」
 と命名 鹿児島大などのチーム、南日本新聞 30 面; 2024 年 3 月 1 日
 国内で 94 年ぶり、新属新種の植物「ムジナノシヨクダイ」発見…分析した専門家「まさか日本で見つかる
 とは」、読売新聞オンライン、2024 年 3 月 1 日
 大阪本社版夕刊 8 面、2024 年 3 月 4 日
 国内 90 年ぶり、植物の新属「ムジナノシヨクダイ」を発見 大隅半島の山地、光合成せず地中に 神戸大教
 授が命名、神戸新聞 NEXT 21 面、2024 年 3 月 1 日
 国内で約 1 世紀ぶり“新属”の植物「ムジナノシヨクダイ」発見、NHK NEWS (おはよう日本)、2024 年 3
 月 1 日
 新属新種の植物「ムジナノシヨクダイ」を発見 鹿児島・肝付の山林、毎日新聞、デジタル版; 2024 年 3 月 1 日
 光合成しない植物の新属発見 「ムジナノシヨクダイ」と命名、共同通信、2024 年 3 月 1 日



鹿児島大学総合研究博物館 第21回特別展 (国際島嶼教育研究センター共催)

世界自然遺産 奄美大島・徳之島の自然

— 鹿児島大学における研究の最前線 —

奄美大島・徳之島の自然・生物多様性・人文社会をより理解すべく、本学15名の研究者の取り組みを紹介します

2024年 **2/10** (土) ~ **3/1** (金)
 8:30-17:00 [休館日 2/11, 12, 18, 23-25]
 鹿児島大学郡元キャンパス
 中央図書館ギャラリーアトリウム

入場無料 図書館へ入るには本人確認が必要となります
 身分証明書、運転免許証などをご持参ください

展示会場にて以下の日程の**12:10-12:40**に
 鹿大教員によるギャラリートークを開催します

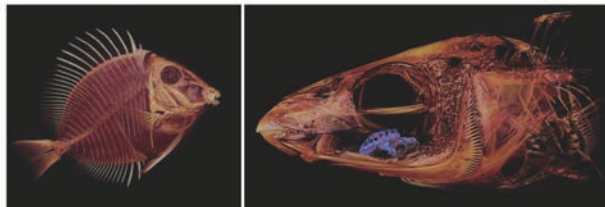
2/13(火) 鈴木英治・川西基博	2/14(水) 坂巻祥孝・鶴川 信
2/15(木) 上野大輔・久米 元	2/20(火) 本村浩之・山本智子
2/22(木) 高山耕三・田金秀一郎	2/26(月) 大塚 靖・榮村奈緒子

鹿児島大学総合研究博物館
 〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30
 Tel: 099-285-8140 Fax: 099-285-7267
<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿児島大学総合研究博物館 第27回研究交流会



形態が解き明かす進化史と
社会にもたらす価値



Dr. Kory Evans Rice University, USA

Evolutionary mosaics & the interplay between innovation and integration
進化的モザイク、および進化的革新と統合の間の相互作用

Dr. Maria Laura Habegger University of North Florida, USA

The tale that fishes can tell addressing the impact of basic science research in marine systems
魚が教えてくれること～海洋生態系の基礎研究が社会にもたらす価値とは

2023年5月24日(水) 16:00～18:00 逐次通訳あり
(日本語で聴講できます)

会場 鹿児島大学連合農学研究科3階会議室
無料/事前申し込み不要



鹿児島大学総合研究博物館 第41回市民講座



鹿児島大学総合研究博物館では、2006～2008年に、鹿児島県曾於郡大崎町にある前方後円墳・神領10号墳の発掘調査を行いました。
この調査で、5世紀の巨大な石棺や豊富な副葬品が出土しました。
今春、その調査報告書をまとめたので、あらためて調査成果の紹介を行います。

5世紀の前方後円墳の
内部を発掘する

—大隅大崎・神領10号墳の石棺と副葬品—

講師：橋本達也
(鹿児島大学総合研究博物館 教授)

2023年7月29日(土) 13:30～15:00 (13:00から接続できます)

オンライン (Zoom) 開催

申し込み：下記 URL もしくは QR コードからアクセス
<https://forms.gle/DzuwmDph4cPsrtts5>



フォームにアンケートを入力の上、送信いただくと、その後に、Zoomの参加情報が表示されますのでメモを保存してご参加下さい。

・メールアドレス等不要です。個人情報は収集しません。
・Zoomの使用方法は各自で検索をお願いします。



鹿児島大学総合研究博物館

099-285-8141

<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿児島大学総合研究博物館 2023年度イベント

第5回バックヤードツアー
『植物標本庫』

植物標本庫はどんなところ？何のために存在するの？普段入ることのできない鹿児島大学総合研究博物館植物標本室にて、「研究資料」としての植物標本の意義や身近な植物の名前の調べ方、博物館での収蔵管理や利用について解説します

2023. 12/10 (日)
10:00～12:00

場所 鹿児島大学総合研究博物館
共同利用棟2階 植物標本室

案内者 田金秀一郎 (鹿大博物館)
参加費 無料

当館所蔵の牧野富太郎博士が
つくった実物標本もご覧いただけます！



申し込み方法 次の事項をハガキ、FAX、またはemailに明記し、下記までお送りください
個人情報はこの企画の目的以外には使用致しません。参加決定者には
後日詳しいプログラムをお送りいたします

①参加希望者全員の氏名・年齢、②住所、③電話番号、FAXまたはemailアドレス

応募締切 2023年12月4日(月) 16:00必着

定員 7名程度 (希望者が定員を超えた場合は抽選となります)

応募先 鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30
Tel: 099-285-8140 Fax: 099-285-7267 email: info@kaum.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学総合研究博物館年報

Annual Report of the Kagoshima University Museum

No. 21

2023

2024. = . =

鹿児島大学総合研究博物館 The Kagoshima University Museum
890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan
Printed in Japan